

文部科学省  
『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』  
採択事業

- 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン -

# 平成 29 年度 内部評価報告書

平成 30 年 2 月

**新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会**

---

九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学  
熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学

はじめに

『新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 10 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画するプロジェクトであり、文部科学省が行う『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』事業の採択を受けて活動しています。

本報告書は、平成 29 年度（平成 29 年 7 月 18 日～平成 30 年 3 月 31 日（見込み））の実績について取りまとめ、各大学および本プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、新ニーズに対応できる人材を養成して参ります。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」

平成29年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている /  
c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

九州がんプロ	c:あと少しで目標を達成できる
--------	-----------------

○各大学の自己評価

九州大学	b:目標を達成できている
福岡大学	c:あと少しで目標を達成できる
久留米大学	b:目標を達成できている ~ c:あと少しで目標を達成できる の間
佐賀大学	b:目標を達成できている
長崎大学	c:あと少しで目標を達成できる
熊本大学	b:目標を達成できている
大分大学	c:あと少しで目標を達成できる
宮崎大学	c:あと少しで目標を達成できる
鹿児島大学	b:目標を達成できている
琉球大学	c:あと少しで目標を達成できる

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

作成担当コーディネーター	九州大学 馬場 英司（幹事コーディネーター・北部エリア部会長）
	長崎大学 芦澤 和人（西部エリア部会長）
	鹿児島大学 上野 真一（南部エリア部会長）
事務担当者	九州大学医系学部等事務部 学務課 内藤 正彦

## 1. 概要

## 補助事業の目的・必要性 総論 ※交付申請時の内容を転記（編集不可）

本プランはこれまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座が10の大学院・関連医療機関等と密接に連携し九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。また長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座が九州内連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。当該講座には専門の教員を配置し、各大学病院内の小児がん医療部門、希少がん部門、ゲノム医療関連部門等との強力な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した多職種連携教育の構築・情報発信を行う。またゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 目的・達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度は事業の初年度であり、各大学の教育コースも開講が一部に留まったことから、拠点内の連携体制の構築や、シンポジウム・セミナー等の積極的な実施に重点を置き活動を行った。

エリア拠点である九州大学、長崎大学、鹿児島大学を中心に検討を行い、平成29年12月に「**事業運営推進協議会**」を設置し第1回会議を実施（右写真参照）。各大学のコーディネーター教員等を構成員とした。この会議において、拠点および大学ごとに予定しているゲノム医療、小児・希少がん、ライフステージに関する様々な計画を共有した上で実施することができた。詳細は各大学の評価シートを参照願いたい。事業予定や実施報告は、本プランのホームページ等により積極的に情報発信を行うとともに、拠点内においてリアルタイムで共有できるように努めた。



ただし、各大学の個別の取り組みを、大学の枠を越えて波及させられていない点において課題が残る。がんプロ事業は複数大学が密接に連携し地域として人材を養成して成果を出すことが求められている。九州という広範なエリアにおいて、地域差や大学差を生じさせず、どの大学においても新ニーズに対応した優秀な専門医療人材が養成できるような対策を来年度は検討・実施し、本プランの活動をより加速・発展させていく。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度においては、教育コースの開講は一部に留まったものの、受入目標を上回る結果を出すことができた大学もあった（詳細は（2）①を参照）。また、旧がんプロコースの学生を含め、新ニーズに関する知見を広めるためにゲノム医療やライフステージ等に関して各大学においてシンポジウムやセミナー等を幅広く展開した（別紙「数値実績一覧」を参照）。特に、**長崎大学で実施した「記念講演会」**においては、近畿大学医学部ゲノム生物学教室の西尾教授を講師としてお招きし、ゲノム医療に関する最新の情報を自大学のみならず**テレビ会議システムを利用して他大学にも配信**することで、拠点内の連携を図った（右図チラシ参照）。加えて、実際に顔の見える形での情報共有や交流、他職種連携も非常に有益であると考えており、3月に九州大学において**1泊2日の「九州がんプロ全体研修会」**を実施予定である。今年度においては、ライフステージに応じた症例検討や遺伝ワークショップを企画している。

熊本大学や大分大学においては、平成29年度において旧がんプロコース生を含めて**11名の学生ががん治療認定医等の資格を取得することができ**、第2期がんプロで培った養成基盤を活かしながら発展的に活動を継続させることができている。来年度もこのような資格取得をはじめ、医療現場において即戦力となることができる人材を各大学において養成すべく、各種講演会等の大学間相互乗り入れによる効率的・効果的な実施はもとより、資格取得支援やeラーニング講義の本格準備など幅広い教育を展開していく。



## 2. 各事業の取り組み状況

### (1) 交付申請書に記載した内容への対応

No	具体的な事業内容 ※交付申請時の内容を転記(編集不可)	実施計画 ※同左(編集不可)
①	新しい教育コース(大学院コース、インテンシブコース)の準備、開始、運営	7月～3月 新しい教育コース(大学院コース、インテンシブコース)の準備、開始。
②	本プランを有効かつ効率的に運営するための事務機関として、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」を設置し、プロジェクトの事務管理を行う。	7月「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」を設置。
③	e-learningシステムのコンテンツ作成、維持管理を行う機関として、「eラーニング支援室」を設立する。	7月～10月「eラーニング支援室」を設置。
④	プランにおける取組、成果を開示し広く国民に理解をいただくため、また、継続的な学生確保のための「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランホームページ」を開設する。	7月～10月 ホームページの開設。
⑤	事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」(仮称)を設置し、開催する。	10月「事業運営推進協議会」(仮称)を開催。
⑥	連携大学間のテレビ会議システムによる「ゲノム医療講習会」を実施する。	10月～12月 連携大学間のテレビ会議システムによる「ゲノム医療講習会」の実施。
⑦	各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施する。	10月～2月 各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施。
⑧	連携大学共同による研修会を実施する。	1月 連携大学共同による研修会を実施。
⑨	国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議する。	2月 国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議。
⑩	連携大学間のテレビ会議システムによる「小児緩和医療講習会」を実施する。	2月 連携大学間のテレビ会議システムによる「小児緩和医療講習会」を実施。

No	実績 ※1～2行程度で簡潔に記述	成果(学生教育の観点での成果について記載) ※同左
①	大学院コース3コース、インテンシブ3コースにて学生を受入。その他コースは来年度の本格始動に向け準備中。	目標を上回る受入を行ったコースが計5コースあり、インテンシブ修了者も70名を超える成果があった。
②	事務局を九州大学に設置し、今後5年間の具体的な事業計画を策定した。	新ニーズに対応できるがん専門医療人を養成するための事業計画・評価指標を定め拠点内で共有することができた。
③	eラーニング支援室の専任スタッフを12月に雇用し、新しい体制を整えた。	各大学が担当するeラーニング講義の内容を今年度中に確定予定で調整することができた。
④	ホームページを10月末にリニューアル公開した。	がんプロコースの情報等を提供した結果、入学希望者からの問合せがある等、着実に情報発信がなされている。
⑤	事業運営推進協議会構成員を決定し、12月の第1回会議を皮切りに、今年度は3回の会議を開催した。	テレビ会議も利用することで拠点内の情報共有を効率的に行うことができ、各大学の教育内容に反映することができた。
⑥	各大学にてゲノム医療に関する講習会を展開し、一部の講習会ではテレビ会議システムにて遠隔地での受講を可能とした。	ゲノム医療に関する知識について、がんプロ学生・教員間にて幅広く学ぶ機会を提供できた。
⑦	各大学において計約70回のシンポジウム、セミナー、講習会等を実施した。	合計約4,000名の参加があり、幅広くがんに関する知識等を提供することができた。
⑧	3月に九州大学を会場として開催予定である。	今年度はライフステージに関する症例検討を予定しており、新ニーズに対応した教育機会を提供することができている。
⑨	国内のがんプロ他拠点および米国医療機関を訪問調査し、今後の具体的な連携体制について協議を行った。	米国訪問ではゲノム研究の最前線について学生に学ばせることができた。今後も継続的な連携構築に向けて協議する。
⑩	九州大学附属病院が行う「小児緩和ケアチーム勉強会」(計4回)へがんプロ学生を積極的に派遣した。	附属病院との連携により小児緩和医療の教育を提供することができた。次年度は拠点内への波及についても検討を行う。

### (2) 各事業の実績・成果(詳細) ※各大学の取り組みも踏まえ、特色ある内容等に触れながら記述すること。

<p>①教育コース(大学院コース、インテンシブコース) ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p> <p>大学院コースの一部は本年度より開講した。特に、九州大学の「がん専門細胞検査士コース修士課程」および熊本大学の「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では<b>当初目標を上回る学生受入を達成することができた</b>点が評価できる。インテンシブコースにおいても、福岡大学の「他職種連携がん専門医療人養成コース」においては<b>当初目標を24名上回ることができ</b>、多くの学生に教育の機会を提供することができた。</p> <p>しかしながら、幾つかのコースにおいては当初目標を達成できておらず、来年度に更なる履修者のリクルート、広報活動を行うことで目標数値の達成に努め、拠点として一人でも多く新ニーズに対応できるがん専門医療人を養成していく。</p>
<p>②シンポジウム、セミナー、講習会等 ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p> <p>今年度は拠点内において合計約70回のシンポジウム等を開催し、約4,000名の参加を得ることができ、いずれも<b>当初目標を上回ることができた</b>。ただし、これらの活動は各大学での個別の活動に留まっている傾向がある。次年度は、拠点内への波及ができるよう周知方法等を更に検討していく。</p>

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

本プランのホームページを刷新し、各大学の事業案内や開催報告を積極的に発信するように努めた。**10月末の公開以来、30回にわたって継続的に情報をアップデートでき**、広く社会に情報発信を行うことができた。また、第2期がんプロでの評価結果等を踏まえ、**新たにFacebookやTwitterといったSNSとの連携も開始**した。

今後、ホームページおよびSNSの**閲覧状況について集計・分析が行える機能を整備**し、より効果的な発信ができる体制を構築する予定である。



④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

各大学において附属病院等との連携によるセミナー等を積極的に展開した。詳細は各大学の評価シートを参照。他にも琉球大学では、過去の**がんプロ修了生**ががん看護専門看護師として自大学病院の緩和ケアセンターに勤務し現在の学生への教育・研究に貢献するという好循環も生まれている。他大学においても同様の成果が出ていることを踏まえ、九州がんプロとして**修了生の現状を調査**し、修了生と新がんプロコース生が交流できる場等を提供することにより、キャリア教育、キャリア形成に反映させていく。また、各大学が個別に実施している関連病院との事業についても、他大学で参加が可能なものは積極的に共有できるよう体制を整備する。

⑤離島・僻地対策 ※一部地域のみでの取り組みではなく、九州全体での取り組みが分かるように記述すること。

長崎大学においては「**離島・僻地実習**」および「**在宅医療実習**」を行い、6名の学生を計5の医療機関等に派遣して、地域医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進できる人材養成を行った。また、鹿児島大学においては、第2期がんプロで開設した「**僻地・離島医療専門医療人養成コース**」に現在も学生を受け入れており、継続的に離島・僻地対策に力を入れている。

ただし、これらの取り組みが拠点全体には反映されておらず、九州全体として離島・僻地医療への取り組みが行えているとは言い難い。来年度以降、現在の活動を拠点全体に波及させるための具体的な事業を実施する。

⑥自己評価体制（拠点間リトリート含む）

九州がんプロにおいて「事業運営推進協議会」を組織し、その中で拠点における**事業の評価指標を具体的に策定**した。これをもとに今回の内部評価を実施しており、この結果を「**外部評価委員会**」委員に**依頼し第三者評価を行う**ことで、客観的な視点も加えた事業の見直しを実施する。また、内部・外部評価の結果はホームページ等にて広く社会に公開・発信する予定であり、これにより更に多くの関係者・市民等から意見を得ることで、恒常的なPDCAサイクルの確立に努める。

また、九州がんプロにおいては、**東北大学拠点との「拠点間リトリート」**を来年度から本格実施する予定である。今年度はトライアルとして九州大学のがんプロ教員・学生が東北大学への訪問研修や合同研修会を実施し連携体制の基礎を築いた。

3. 拠点（九州がんプロ）内の連携体制

①各エリアでの活動

	活動内容 ※5行程度で記述
北部エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学（エリア拠点）、福岡大学、久留米大学、大分大学にてエリアを構成。</li> <li>今年度は多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を目指した各大学の活動状況について、事業運営推進協議会を通じて意見交換を行った。来年度から開講される新コースの運営について貴重な情報共有を行う事ができた。</li> <li><b>大分大学と九州大学</b>は、九州各県の地域医療の病院からの参加も含む40名余りが参加する<b>合同カンファレンス</b>を開催する（2018年3月3日）。テーマはゲノム医療について、特に本年度実施した医療機関訪問調査に基づく国内外の最新情報を報告する。</li> </ul>
西部エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>長崎大学（エリア拠点）、熊本大学、佐賀大学にてエリアを構成。</li> <li>各大学の教育コース開講は一部のコースを除いて来年度からの予定となっており、今年度は各大学が、コース開講の準備と種々の講演会やセミナーを開催した。来年度からは新コースの開講に伴い、新ニーズに対応する専門医療人を育成するために、<b>セミナーや研修等の共同開催やゲノム関連の情報共有</b>等、連携体制の構築を行う予定である。</li> </ul>
南部エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島大学と宮崎大学で、琉球大学にてエリアを構成。</li> <li>がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）を、鹿児島大学ならびに宮崎大学合同で今年度2～3月に<b>南部エリアにおける離島3カ所で開催</b>した。</li> <li>1月、鹿児島大学より講師を派遣し、宮崎大学四部門合同研修会で「がん地域連携」に関する講演を行った。</li> <li>国のがんゲノム医療開始（中核病院～連携病院）に合わせて、鹿児島大学～宮崎大学ならびに慶応義塾大学間で情報交換会や説明会を行った。<b>テレビ会議等により、これを南部エリア全体に広げる。</b></li> </ul>

②その他：上記エリアに限らず、大学間の連携や役割分担について特記すべき取り組みがあれば記載（5行程度）。

・eラーニング講義の準備に関して、拠点として新ニーズに関する科目を確実に公開・提供できるよう、九州がんプロ事務局に設置した「eラーニング支援室」および九州大学eラーニング担当教員が各大学のリソースや意向を細やかに聴取しながら、**複数大学が連携して柔軟なコマ構成・講師編成**ができるように現在調整を行っている。

#### 4. プラン採択時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の評価への対応

##### (1) 推進委員会所見（平成29年5月23日発表）への対応状況

要望事項	所見の内容 ※工程表の内容を転記（編集不可）	本プランの対応方針 ※同左
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	地域により3つのエリアに分け、それぞれのエリアに拠点校を置いて、各拠点校がそれぞれのエリアのコーディネーターの教員と連携して事業を推進し、主幹校である九州大学が全体を総括して事業を推進する体制を整える。各大学の補助期間終了後は自大学において予算を確保し本プランで新設したコースを維持し事業を継続する予定としている。また補助期間中より「事業運営推進協議会」（仮称）において、事業継続のための具体的な検討を行う。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	工程表に基づき、毎年、事業の自己点検・進捗管理を行うとともに、3年目に中間外部評価シンポジウムを開催して、中間評価に基づき、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	九州大学内に本プラン事務局を設置し、本プランに係るHPを公開して情報発信するとともに、本プランが主催・共催する講演会、市民公開講座などで事業成果を広く共有し社会に発信する。また、シンポジウムを開催して、取組みや成果を情報発信する。

##### 推進委員会所見に対する今年度の対応状況 ※3～5行程度で記述

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリア拠点として九州大学、長崎大学、鹿児島大学を選定し、小エリアごとの連携体制を構築して事業を展開することで、九州10大学の広範な拠点が一体となれるよう努めている。来年度においては、より具体的な事業内容を策定・実施する予定である。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、この内部評価シートをもとに外部評価委員による書面評価を行うこととしている。</li> <li>がんプロ事業に採択された他拠点（東北大学）を訪問し、相互評価の体制構築に向けて具体的な協議を開始した。来年度以降、相互評価を具体的に実施予定である。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>本プランのホームページを10月末にリニューアル公開し、各大学が行う事業等の情報を積極的に発信している。また、拠点内の各大学が実施した講演会・セミナー等は合計約70回であり、約4,000名の参加を得ることができた。実施事業の一部は実施報告をホームページにすでに掲載済みであり、今後も情報を追加していくことで、地域や社会、他大学等へ発信していく。</li> <li>今後、<b>他拠点が実施した事業等の調査</b>を行い、九州がんプロとして取り入れられるアイデアは積極的に企画に組み込んでいくことで、事業の改善を更に図る。</li> </ul>

##### (2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

	推進委員会のコメント（充実を要する点） ※工程表の内容を転記（編集不可）	本プランの対応方針 ※同左
①	連携大学との教育・研究の情報共有方法を明確にする必要がある。	「事業運営推進協議会（仮称）」を1年目に設置し、2年目以降は原則として年2回開催して連携大学間で教育・研究の情報共有を図る。また、TVカンファレンスや合同講習会を利用して限られた教育リソースを効率的に共有すると共に、毎年、連携大学共同の研修会を実施する。更に、本プランコース履修生の修了後、所属先でのがん診療、研究における活動を調査し、その情報を連携大学間で共有することで事業成果を広く活用する。

②	拠点間リトリートの開催は有用と思われるが、トピックによっては医療事情や社会事情が異なるので、地域性を考慮し、相互にメリットが得られるよう工夫が必要である。	それぞれの拠点が実施している特色のある活動に関する情報を、相互に提供しあえるように拠点間リトリートの内容を検討する。例えばゲノム医療に関しては、すでに国内最大規模で稼働している東北メガバンクの情報を東北の拠点より提供頂き、がん教育に関する国際連携拠点については韓国ソウルのアサン医療センターにて継続的に実習を行っている九州の拠点が情報提供することを計画している。
③	事業の実施体制において、実施に関わる教員数が著しく少ない。	連携大学の医学研究科等の長が各大学における事業責任者となり、九州大学大学院医学研究院長がこれを統括する。各大学には実務担当のコーディネーター教員を1名置き、九州大学の幹事コーディネーター教員がこれを統括する。事業の実施にあたっては、各大学において、実務担当のコーディネーターに協力して、がん関連の他の教員等もコース運営、事業実施に参画する体制をとる。
④	ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。	ライフステージ毎に異なる、多様な患者・家族支援を提供できるよう複数の医療機関、および医療機関以外の他団体の専門職が参加するカンファレンスを開催し、がんプロ学生、教員も含めて先駆的な対応策の実施を検討する。

#### 推進委員会からのコメントに対する、今年度の対応状況 ※3～5行程度で記述

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>「事業運営推進協議会」を設置し、今年度は3回の会議を実施。遠隔地の大学とも、テレビ会議システム等を利用して効率的に情報共有が行えるよう環境を整備している。</li> <li>3月に拠点全体の「全体研修会」を実施し顔の見える形での交流・情報共有を行う予定である。</li> <li>事業の情報は拠点事務局がホームページで積極的に公開し市民へ広く発信するとともに、拠点内の情報共有ツールとしても活用している。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はトライアルとして、九州大学の教員・学生が東北大学拠点を訪問した。拠点間の地域性等を考慮して相互評価を行えるよう、現在、具体的な評価指標等について検討を行っている。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学にコーディネーター教員を設置し、九州大学に幹事コーディネーターを設置。大学間の連携を密にする体制を整えた。各大学において医学研究科等の長とも常に報告・連絡・相談を行っており、最終的に拠点内は九州大学大学院医学研究院長が統括する体制を構築している。</li> <li><b>各大学のがんプロ教育を担当する教員をリスト化</b>し、拠点内で共有できるよう準備を進めている。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は大学院・インテンシブコースの教育内容にライフステージ領域に関するものを盛り込み、当該領域の人材養成を行う環境構築を進めるとともに、各大学にて小児がん医療、がん患者の就労支援、高齢がん患者のQOLを尊重したがん治療の決定、小児がんサバイバーの長期管理、緩和ケア等に焦点を当てたセミナーや勉強会を各種展開した。次年度は<b>拠点としてライフステージに関する取り組みを集約</b>し、大学の枠を超えて利用・共有できるよう整備していく。</li> </ul>

## 5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

#### 理由・分析等

- 今年度は教育コースの一部しか開講できていないため、来年度に全てのコースを開講し、受入目標を達成できるよう取り組む。今年度すでにコースの幾つかは当初目標を達成できていない点が課題となっている。
- エリア拠点を設置したが、各エリア内の交流が未だ活発化できていない。
- 活動に大学差・地域差が生じている点も課題である。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- 更に積極的な学生受入を行い、当初目標の受入人数を達成すべく、拠点として知恵を出し合い一体で事業達成に取り組む。
- エリア拠点のイニシアチブにより、来年度当初にエリアでの事業計画を策定。具体的な事業を展開する。
- エリア拠点を中心に各大学の進捗状況を的確に管理し、どの大学においても新ニーズに対応した教育の機会が得られるよう体制を整備する。



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	九州大学
コーディネーター	大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 教授 馬場 英司
事務担当者	医系学部等事務部 学務課 課長補佐 内藤 正彦

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本事業遂行のため九州大学大学院医学研究院内「九州連携臨床腫瘍学講座」に教員4名を配置し、本プラン推進のための中心的な存在として運営を行った。
- ・「事業運営推進協議会」事務局を九州大学内に設置した。
- ・eラーニング支援担当者を雇用し、eラーニング充実のための講義記録支援、著作権問題対策を行った。
- ・「新ニーズに対応する九州がんプロプラン」では多くのコースが平成30年度からの開始予定であり、本年度の大学院生の受入実績は「がん専門細胞検査士コース修士課程」2名、「がん研究薬剤師コース博士課程」1名、「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」0名、「希少がん・放射線治療学コース」0名、「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」0名、「先端医用量子線技術科学コース」0名であった。
- ・平成30年1月29日、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントとして、全国がんプロ協議会の主催により東京大学鉄門記念講堂にて行われた「平成29年度全国がんプロ教育合同フォーラム」へ九州大学より3名が発表者・聴講者として参加した。
- ・来年度より始まる「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」に移行予定の旧がんプロ大学院生を対象として、ゲノム医療に対する理解を深める目的で「九州連携臨床腫瘍学ゲノム講習会」を計9回開催し、教員・大学院生84名が参加した。
- ・小児緩和ケアチームの定期的な活動（ラウンド週1回、勉強会 2ヶ月に1回、カンファレンス 2ヶ月に1回）に積極的に参加し、がんプロ教員・大学院生が毎回4名程度参加した。
- ・平成29年12月18日、東北大学拠点との「拠点間リトリート」の準備および教員のファカルティ・ディベロップメント、ゲノム医療教育の一環として、教員 3名、学生 2名（がんプロ卒業生 1名を含む）にて、東北メディカル・メガバンク機構（ToMMo: Tohoku Medical Megabank Organization）の訪問研修を実施した。
- ・平成30年1月15-17日、ゲノム医療における海外の先進事例を収集するため米国 University of California San Diego (UCSD)、Laboratory of Gene Regulation (Prof. Bing Ren) の訪問研修を行い、教員 2名、学生 2名（がんプロ卒業生 1名を含む）が参加した。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

本プラン学生を対象とし「九州がんプロ全体研修会」、「ゲノム講習会」、「東北メディカル・メガバンク機構訪問研修」、「米国ゲノム研究室訪問研修」を実施した。また、本プラン学生のうち小児科領域を学ぶ学生を対象とし「小児緩和ケアチームによる定期的な活動」（ラウンド、勉強会、カンファレンス）への参加、レポート提出を求めた。

「九州がんプロ全体研修会」では本プランが目指す「ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う」ため、多職種の学生・教員が集い、症例検討、ディスカッションを通じてより良いがん医療への理解を深めた。

「ゲノム講習会」は計9回開催し、「米国のがん医療におけるリキッドバイオプシー」、「データベースの検索方法・臨床データを用いた演習」などについて学習した。また長崎大学病院において開催されたがんプロ記念講演会をビデオ会議システムにて中継し、近畿大学医学部ゲノム生物学教室 西尾 和人 教授による「がんの遺伝子パネル検査を用いたクリニカルシーケンス」の講演を聴講した。ゲノム講習会にはのべ教員・大学院生84名が参加した。

「東北メディカル・メガバンク機構の訪問研修」では、東北メディカル・メガバンク機構の目的である被災地の方々の長期健康支援、個別化医療、個別化予防を実現するための大規模ゲノムコホート研究と複合バイオバンク構築のうち、東北大学におけるバイオバンク事業とそのデータ解析部門を中心に見学でき、非常に有意義であった。

「米国ゲノム研究室訪問研修」では本プランの達成目標の一つである「ゲノム医療に対する海外の先進事例を積極的に収集する」ため、米国におけるゲノム関連の研究者との相互交流と通して、ゲノム研究の最前線を学ぶことができた。また、Illumina本社研究室も訪問し、次世代シーケンズの基礎から最新のゲノム解析技術の可能性について学んだ。今後、これらの訪問実習について学会報告を検討している。

「小児緩和ケア」の勉強会においては「小児医療現場におけるDNAR指示について」、「事例を通じて周産期医療における緩和ケアを想像してみる」、「小児の栄養について～食べることは、生きること～」、「アドバンス・ケア・プランニング いのちの終わりについて話し合いを始める」等の演題についての講演を聴講し、小児緩和ケアについての理解を深めた。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・今年度の大学院コースの実績は「がん専門細胞検査士コース修士課程」2名、「がん研究薬剤師コース博士課程」1名であったが、来年度よりこれに加えて新たな教育コース「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」、「希少がん・放射線治療学コース」、「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」、「先端医用量子線技術科学コース」の受け入れを開始する。
- ・今後開講する大学院コースの学生における「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」作成支援を実施し資格取得者増に向けた取組を行うための検討・準備を行った。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・平成30年3月10-11日、「九州がんプロ全体研修会」を開催し（学生8名、教員等12名が参加予定）、AYA世代・高齢者がんのライフステージに応じた症例検討や遺伝ワークショップを基本とし、多職種によるチーム医療、緩和医療を軸とした議論を通じて本プランコース担当教員、大学院生のがん医療への理解を深める。また、来年度も継続して「九州がんプロ全体研修会」を開催する。
- ・平成30年3月24日、拠点間リトリート、前期がんプロ大学院生の教育の一環として「第1回腫瘍内科医交流セミナー」を開催予定である。
- ・3月3日、大分大学腫瘍内科との合同カンファレンスを行い、症例検討、臨床試験や、金沢大学病院生物統計部門長 吉村健一先生による特別講演を予定している。
- ・男女共同参画に係る講演会を開催予定である

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

事業成果は「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」公式ホームページを積極的に更新し（平成29年度は30回更新）、Facebook・TwitterといったSNSとも連携（平成29年度は75回投稿）することで、広くわかりやすい形での情報発信・普及に努めた。

平成30年1月より、市民公開講座「患者さんと家族のためのセミナー」を月1回開催し（第1回 薬物療法のいろは、第2回 そもそも乳がんって何？、第3回 放射線治療の基礎知識を学ぶ）、患者とその家族 計6名（予定）に参加いただき、啓蒙活動を行った。

今後もセミナー・研修会などの予定イベントや事業成果についてホームページを通じ、情報発信し、本プランの認知度向上に務める。

### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

1泊2日の「九州がんプロ全体研修会」をはじめとした対面での交流に加え、eラーニング支援・テレビ会議システム等のツールも効果的に利用することで、九州全域における教員・学生のネットワークの拡大・深化を進めるとともに、全域一律の教育の提供を実施している。

当院がんセンターと共催し、定期的に「がんセミナー」を開催しており、がんプロ学生にも出席を求めている（平成29年度はのべ10名が参加）。また、地域のがん診療連携拠点病院や小児がん拠点病院の先生にも出席して頂き、積極的な意見交換を行っている。

<p>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</p>
<p>教員のファカルティ・ディベロップメントの一環として「平成29年度全国がんプロ教育合同フォーラム」に参加し、ライフステージに応じたがん対策について、がんプロ事業に採択された各拠点の今年度の取り組みの発表があり、今後の事業を進める上でとても貴重な機会となった。</p> <p>ライフステージに応じたがん対策推進として、小児がん医療に従事する人材育成を目指すため、「小児緩和ケアチーム特別講演」を開催し、平成29年度は計4回、講師を招いて講演を行った。また、2ヶ月に1回、定期的の小児緩和ケアカンファレンスを開催し、症例検討や振り返りカンファレンスを行っている。</p> <p>H30年3月開催予定の「九州がんプロ全体研修会」にて、若年及び高齢者のがん症例検討会を企画し、実践的な課題を取り上げて多職種を交えての情報交換を図る。</p> <p>H30年度の大学院コースに「小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療」という科目を新設し、それぞれの年代における包括的な問題点を理解・考察したうえでがん医療を実践できる医療人の育成を目指す。</p> <p>がんプロ教員が日本臨床腫瘍学会において妊孕性ガイドライン作成委員会に所属しており、ここで得られた最新の情報や小児・AYA世代におけるがん治療の際の妊孕性温存の問題点について、学生教育に反映している。また、若年性の大腸がん、子宮体がんの原因となるマイクロサテライト不安定性の高い「リンチ症候群」に対する免疫チェックポイント阻害薬による治療や遺伝子診断、遺伝カウンセリングについても取り組んでいる。</p> <p>高齢者のがん治療においては、近年注目されているオンコカルディオロジーに特化した講義を予定している。</p>

### 3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>b</p>
<p>理由・分析等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プランの来年度からの大学院生の受け入れ準備として、シラバス作成やeラーニング支援などの本プラン事業推進の準備は達成できている。</li> <li>・ゲノム講習会、東北メガバンク訪問、東北大学との拠点間リトリートや米国サンディエゴ訪問研修、市民公開講座など、予定していた研修はすべて達成できた。</li> </ul>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度より新しい教育コース「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」「希少がん・放射線治療学コース」「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」「先端医用量子線技術科学コース」の受け入れを開始する。各コースの履修者や修了者に対しては個別面談やアンケート調査を行う等を通じてプログラムの改善に努め、当初の受入れ目標の達成を目指す。</li> <li>・引き続き、「事業運営推進委員会」開催やテレビ会議等により、大学間の定期的な情報交換を実施し、本プラン推進のため「九州がんプロ全体研修会」等の他大学との密接な交流を図っていく。</li> <li>・男女共同参画に係る講演会を開催する。</li> <li>・「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」作成支援を実施し資格取得者増に向けた取組を行う。</li> <li>・セミナー・研修会の開催、事業成果をホームページなどの情報発信等にて、本プラン外にも広くわかりやすい形で認知度向上に務める。</li> </ul>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	九州大学
-----	------

○ 英文誌

No.	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Kawano <u>Y</u> , Iwama E, Tsuchihashi K, Shibahara D, Harada T, Tanaka K, Nagano O, Saya H, Nakanishi Y, Okamoto I. CD44 variant-dependent regulation of redox balance in EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer: A target for treatment. Lung Cancer. 2017 Nov;113:72-78.
2	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Ikematsu <u>Y</u> , Yoneshima Y, Ijichi K, Tanaka K, Harada T, Oda Y, Nakanishi Y, Okamoto I. Marked response to pembrolizumab in a patient with pulmonary pleomorphic carcinoma highly positive for PD-L1. Lung Cancer. 2017 Oct;112:230-231.
3	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Yanagihara T, <u>Ikematsu Y</u> , Kato K, Yonekawa A, Ideishi S, Tochigi T, Sugio T, Miyawaki K, Tanaka K, Harada E, Hamada N, Nakanishi Y. Expression of PD-1 and PD-L1 on cytotoxic T lymphocytes and immune deficiency in a patient with adult T cell leukemia/lymphoma. Ann Hematol. 2018 Feb;97(2):359-360.
4	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Hirofumi <u>Ohmura</u> et al. Predictive value of the modified Glasgow Prognostic Score for the therapeutic effects of molecular-targeted drugs on advanced renal cell carcinoma. Mol Clin Oncol. 2017 May; 6(5): 669-675.
5	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Teranishi H, Ishimura M, Koga Y, Eguchi K, Sonoda M, Kobayashi T, Shiraishi S, <u>Nakashima K</u> , Ikegami K, Aman M, Yamamoto H, Takada H, Ohga S. Activated phosphoinositide 3-kinase $\delta$ syndrome presenting with gut-associated T-cell lymphoproliferative disease. Rinsho Ketsueki. 2017;58(1):20-25.
6	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Ohyama N, Torio M, <u>Nakashima K</u> , Koga Y, Kanno S, Nishio H, Nishiyama K, Sasazuki M, Kato H, Asakura H, Akamine S, Sanefuji M, Ishizaki Y, Sakai Y, Ohga S. A childhood-onset intestinal toxemia botulism during chemotherapy for relapsed acute leukemia. Ann Clin Microbiol Antimicrob. 2017 Sep 18;16(1):61.
7	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Kobayashi T, Koga Y, Ishimura M, <u>Nakashima K</u> , Kato W, Ono H, Sonoda M, Eguchi K, Fukano R, Honjo S, Oda Y, Ohga S. Fever and Skin Involvement at Diagnosis Predicting the Intractable Langerhans Cell Histiocytosis: 40 Case-Series in a Single Center. J Pediatr Hematol Oncol. 2017 Dec 29.
8	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Yoshihiro <u>I</u> , Tsuchihashi K, Nio K, Arita S, Nakano T, Yasumatsu R, Jiroumaru R, Ariyama H, Kusaba H, Oda Y, Akashi K, Baba E. Lingual alveolar soft part sarcoma responsive to pazopanib: A case report. Medicine (Baltimore). 2017 Nov;96(44):e8470.
9	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Makiyama A, Arimizu K, Hirano G, Makiyama C, Matsushita Y, Shirakawa T, <u>Ohmura H</u> , Komoda M, Uchino K, Inadomi K, Arita S, Ariyama H, Kusaba H, Shinohara Y, Kuwayama M, Kajitani T, Oda H, Esaki T, Akashi K, Baba E: Irinotecan monotherapy as third-line or later treatment in advanced gastric cancer Gastric Cancer 2017 Aug 10. doi: 10.1007/s10120-017-0759-9. [Epub ahead of print]
10	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Yoshihiro <u>I</u> , Nio K, Tsuchihashi K, Ariyama H, Kohashi K, Tsuruta N, Hanamura F, Inadomi K, Ito M, Sagara K, Okumura Y, Nakano M, Arita S, Kusaba H, Oda Y, Akashi K, Baba E: Pancreatic acinar cell carcinoma presenting with panniculitis, successfully treated with FOLFIRINOX regimen: A case report Mol Clin Oncol 6: 866-870, 2017.
11	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Tsuchihashi K, Shimokawa H, Takayoshi K, Aikawa T, Matsushita Y, Wada I, Taguchi R, Ohmura H, <u>Yoshihiro I</u> , Tsuruta N, Hanamura F, Inadomi K, Ito M, Sagara K, Okumura Y, Nakano M, Nio K, Arita S, Ariyama H, Kusaba H, Sonoda K, Akashi K, Baba E: Regorafenib-induced retinal and gastrointestinal hemorrhage in a metastatic colorectal cancer patient with liver dysfunction: a case report Medicine (Baltimore) in press 2017
12	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Tsuchihashi K, <u>Yoshihiro I</u> , Aikawa T, Nio K, Takayoshi K, Yokoyama T, Fukata F, Arita S, Ariyama H, Shimizu Y, Yoshida Y, Torisu T, Esaki M, Odashiro K, Kusaba H, Akashi K, Baba E: Metastatic esophageal cancer presenting as shock by injury of vagus nerve mimicking baroreceptor reflex Medicine (Baltimore) 2017, Dec;96(49):e8987
13	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Muta T, <u>Yoshihiro I</u> , Jinnouchi F, Aoki K, Kochi Y, Shima T, Takenaka K, Ogawa R, Akashi K, Oshima K: Expansion of NKG2C-expressing Natural Killer Cells after Umbilical Cord Blood Transplantation in a Patient with Peripheral T-Cell Lymphoma with Cytotoxic Molecules. Intern Med. 2017 Dec 21.
14	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Toyokawa G, Taguchi K, Edagawa M, Shimamatsu S, Toyozawa R, Nosaki K, Seto T, Hirai F, Yamaguchi M, Shoji F, Okamoto T, Takenoyama M, Ichinose Y. The Controlling Nutritional Status Score Is a Significant Independent Predictor of Poor Prognosis in Patients With Malignant Pleural Mesothelioma. Clin Lung Cancer. 2017; 18(4): e303-313.
15	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Toyokawa G, Okamoto I, Takada K, Kozuma Y, Matsubara T, Haratake N, Akamine T, Katsura M, Mukae N, Shoji F, Okamoto T, Oda Y, Iwaki T, Iihara K, Nakanishi Y, Maehara Y. Discrepancy in Programmed Cell Death-Ligand 1 Between Primary and Metastatic Non-small Cell Lung Cancer. Anticancer Res. 2017; 37(8): 4223-4228.
16	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Yamaguchi M, Taguchi K, Edagawa M, Shimamatsu S, Toyozawa R, Nosaki K, Hirai F, Seto T, Takenoyama M, Ichinose Y. Common features of surgically resected ALK-positive cavitory lung adenocarcinoma: a case report. Surg Case Rep. 2017; 3(1): 46.
17	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Toyokawa G, Takada K, Shoji F, Okamoto T, Maehara Y. Combination Therapy of Radiotherapy and Anti-PD-1/PD-L1 Treatment in Non-Small-cell Lung Cancer: A Mini-review. Clin Lung Cancer. 2018; 19(1): 12-16.
18	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Toyokawa G, Okamoto I, Takada K, Kinoshita F, Kozuma Y, Matsubara T, Haratake N, Akamine T, Mukae N, Hirai F, Tagawa T, Oda Y, Iwaki T, Iihara K, Nakanishi Y, Maehara Y. Clinical Significance of PD-L1 Expression in Brain Metastasis from Non-Small Cell Lung Cancer. Anticancer Res. 2018; 38(1): 553-557.
19	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Toyokawa G, Okamoto T, Shimokawa M, Kinoshita F, Kozuma Y, Matsubara T, Haratake N, Akamine T, Takada K, Katsura M, Hirai F, Shoji F, Tagawa T, Oda Y, Honda H, Maehara Y. Clinical impact of and risk factors for skeletal muscle loss after complete resection of early non-small cell lung cancer. Ann Surg Oncol. (in press)
20	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takamori S</u> , Toyokawa G, Shimokawa M, Kinoshita F, Kozuma Y, Matsubara T, Haratake N, Akamine T, Hirai F, Seto T, Tagawa T, Takenoyama M, Ichinose Y, Maehara Y. The C-reactive protein/albumin ratio is a novel significant prognostic factor in patients with malignant pleural mesothelioma: a retrospective multi-institutional study. Ann Surg Oncol. (in press)
21	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Akamine T</u> , Toyokawa G, Matsubara T, Kozuma Y, Takamori S, Haratake N, Takamori S, Katsura M, Takada K, Shoji F, Okamoto T, Oda Y, Maehara Y. 1 Highlighted version successful resection of a tracheal metastasis of rectal cancer: a case report. J Thorac Dis. 2017; 9(9):E797-E800.
22	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Akamine T</u> , Toyokawa G, Matsubara T, Kozuma Y, Takamori S, Haratake N, Takamori S, Katsura M, Takada K, Shoji F, Okamoto T, Oda Y, Maehara Y. 2 Significance of the Preoperative CONUT Score in Predicting Postoperative Disease-free and Overall Survival in Patients with Lung Adenocarcinoma with Obstructive Lung Disease. Anticancer Res. 2017; 37(5):2735-42.

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 英文誌 (つづき)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
23	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Haratake N.</u> , Toyokawa G, Takada K, Kozuma Y, Matsubara T, Takamori S, Akamine T, Katsura M, Shoji F, Okamoto T, Oda Y, Maehara Y. Programmed Death-Ligand 1 Expression and EGFR Mutations in Multifocal Lung Cancer. Ann Thorac Surg. 2017 Dec 15. pii: S0003-4975(17)31269-9. doi: 10.1016, 2017
24	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Haratake N.</u> , Toyokawa G, Tagawa T, Kozuma Y, Matsubara T, Takamori S, Akamine T, Yamada Y, Oda Y, Maehara Y. Positive Conversion of PD-L1 Expression After Treatments with Chemotherapy and Nivolumab. Anticancer Res. :37(10):5713-5717. 2017
25	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Haratake N.</u> , Shoji F, Kozuma Y, Okamoto T, Maehara Y. Giant Leiomyoma Arising from the Mediastinal Pleura: A Case Report. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 20:23(3):153-156, 2017
26	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Yoshiya K.</u> , Imamura Y, Nakaji Y, Taniguchi D, Takeda R, Ando K, Nakashima Y, Shimizu M, Ohgaki K, Furusyo N, Matsumoto T, Saeki H, Oda Y, Oki E, Maehara Y. Successful Surgical intervention for Rectal Perforation due to Polyarteritis Nodosa: Report of a Case. Surg Case Rep. 3(43),2017
27	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Shimagaki T.</u> , Yoshizumi T, Harimoto N, Yoshio S, Naito Y, Yamamoto Y, Ochiya T, Yoshida Y, Kanto T, Maehara Y. MicroRNA-125b expression and intrahepatic metastasis for early recurrence after hepatocellular carcinoma resection. Hepatol Res. 2017 Oct 6. doi: 10.1111/hepr.12990. [Epub ahead of print]
28	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Hu Q.</u> , Masuda T, Sato K, Tobo T, Nambara S, Kidogami S, Hayashi N, Kuroda Y, Ito S, Eguchi H, Saeki H, Oki E, Maehara Y, Mimori K. Identification of ARL4C as a Peritoneal Dissemination-Associated Gene and Its Clinical Significance in Gastric Cancer. Ann Surg Oncol. Dec 21. doi: 10.1245/s10434-017-6292-6296, 2017
29	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Inoue Y.</u> , Yamashita N, Kitao H, Tanaka K, Saeki H, Oki E, Oda Y, Tokunaga E, Maehara Y. Clinical Significance of the Wild Type p53-Induced Phosphatase 1 Expression in Invasive Breast Cancer. Clin Breast Cancer. Nov 21. doi: 10.1016/j.clbc.2017.11.008:S1526-8209(17)30385-3, 2017
30	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Inoue Y.</u> , Yamashita N, Tokunaga E, Tanaka K, Ueo H, Saeki H, Oki E, Yamamoto H, Maehara Y. A Locally Advanced Breast Cancer that Achieved pCR with Pertuzumab, Trastuzumab and Docetaxel: Case Report. Anticancer Res. 37(4):1917-1921, 2017
31	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Korehisa S.</u> , Ikeda T, Okano S, Saeki H, Oki E, Oda Y, Hashizume M, Maehara Y. A novel histological examination with dynamic 3D reconstruction from multiple immunohistochemical stained sections of a PDL1 positive colon cancer. Histopathology, 2018Mar;72(4):doi: 10.1111/his.13400. Epub 2017 Dec 13:697-703, 2017
32	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Korehisa S.</u> , Oki E, Iimori M, Nakaji Y, Shimokawa M, Saeki H, Okano S, Oda Y, Maehara Y. Clinical significance of PDL1 expression and the immune microenvironment at the invasive front of colorectal cancers with high microsatellite instability. International Journal of Cancer. 2018 Feb15;142(4):822-832, 2017
33	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>T Kamori.</u> , G Toyokawa, T Okamoto, Y Kozuma, T Matsubara, N Haratake, S Takamori, T Akamine, K Takada, M Katsura, F Shoji, Y Maehara. Pulmonary vein stump thrombosis after left pneumonectomy, diagnosed based on a high plasma D-dimer level: a case report. J Thorac. Dis9(3):E210-214, 2017
34	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Fujimoto Y.</u> , Nakashima Y, Sasaki S, Jogo T, Hirose K, Edahiro K, Korehisa S, Taniguchi D, Kudou K, Nakaji Y, Nakanishi R, Ando K, Saeki H, Oki E, Fujiwara M, Oda Y, Maehara Y. Chemoradiotherapy for Solitary Skeletal Muscle Metastasis from Oesophageal Cancer: Case Report and Brief Literature Review. Anticancer Res. 37(10):5687-5691, 2017
35	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Shimauchi T.</u> , Numaga-Tomita T, Ito T, Nishimura A, <u>Matsukane R.</u> , Oda S, Hoka S, Ide T, Koitabashi N, Uchida K, Sumimoto H, Mori Y, Nishida M. TRPC3-Nox2 complex mediates doxorubicin-induced myocardial atrophy. JCI Insight, 2017;2(15):e93358

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>松金 良祐</u> , 濱田 哲暢, 薬効別にみた薬物動態と臨床でのポイント・分子標的抗がん薬, 月刊薬事, Vol.59 No.14, 276-285, 2017, 10月
2	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>高森 信吉</u> , 瀬戸 貴司, 非扁平上皮癌-EGFR遺伝子変異陽性例への薬物治療-治療開始からラストラインまで PS 0-1の患者への治療の実際, 臨床腫瘍プラクティス. 2017; 13(1): 5-7.
3	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>井口 詔一</u> , 播本憲史, 池上徹, 副島雄二, 吉住朋晴, 前原喜彦, 発熱を呈し手術適応に苦慮した出血性肝血管腫の1例, 日本臨床外科学会雑誌 2017, 第78巻 1055-1059ページ
4	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>胡 慶江</u> , 三森 功士. 腹膜播種形成の分子メカニズム, 臨床雑誌 SURGERY79(10), 901-906, 2017

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Yuko Kawano.</u> , Hiroyuki Yamaguchi, Katsuya Hirano, Atsushi Horiike, Miyako Satouchi, Shinobu Hosokawa, Ryotaro Morinaga, Kazutoshi Komiyama, Kouji Inoue, Yuka Fujita, Mitsuhiro Takenoyama, Tomoki Kimura, Motoyasu Okuno, Yasushi Hisamatsu, Junji Kishimoto, Tomonari Sasaki, Yoichi Nakanishi, Isamu Okamoto, Phase I/II Study of Carboplatin, nab-paclitaxel, and Concurrent Radiation Therapy for Patients with Locally Advanced NSCLC. World Conference on Lung Cancer 2017 (横浜)、2017年10月15日~18日
2	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Nakashima K.</u> , Hasegawa D, Miyamura T, Hama A, Iwamoto S, Terui K, Tomizawa D, Adachi S, Taga T. Characteristics and outcome of children with acute myeloid leukemia and Down syndrome ineligible for clinical studies. The International Society of Pediatric Oncology (Washington DC) 2017. 10. 12-15
3	がん専門医師養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Shinkichi Takamori.</u> , Gouji Toyokawa, Hiroki Ueo, Fumihiko Kinoshita, Yuka Kozuma, Taichi Matsubara, Naoki Haratake, Takaki Akamine, Fumihiko Hirai, Tetsuzo Tagawa, Fumihiko Shoji, Tatsuro Okamoto, Yoshihiko Maehara. Family-associated factors influence the postoperative prognosis in patients with non-small cell lung cancer, 2017年欧州臨床腫瘍学会 (European Society for Medical Oncology [ESMO]:2017. 9. 8-9. 12、マドリード[スペイン]、ポスター

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
4	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Shinkichi Takamori</u> , Gouji Toyokawa, Tetsuzo Tagawa, Fumihiko Kinoshita, Yuka Kozuma, Taichi Matsubara, Naoki Haratake, Takaki Akamine, Fumihiko Hirai, Mitsuhiro, Takenoyama, Yukito Ichinose, Yoshihiko Maehara, The C-reactive Protein/Albumin Ratio is a Novel Significant Prognostic factor in Patients with Malignant Pleural Mesothelioma, International Association Society for the Study of Lung Cancer [IASLC]; 2017. 10. 15-18. 横浜、ポスター）
5	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Takaki Akamine</u> , Kazuki Takada, Gouji Toyokawa, Fumihiko Kinoshita, Taichi Matsubara, Yuka Kozuma, Naoki Haratake, Shinkichi Takamori, Fumihiko Hirai, Tetsuzo Tagawa, Tatsuro Okamoto, Yasuto Yoneshima, Isamu Okamoto, Mototsugu Shimokawa, Yoshinao Oda, Yoichi Nakanishi, and Yoshihiko Maehara, Association of Preoperative Serum CRP with PD-L1 Expression in NSCLC: A Comprehensive Analysis of Systemic Inflammatory Markers, 第18回世界肺癌学会（International Association Society for the Study of Lung Cancer [IASLC]（横浜）2017. 10. 15-18、ポスター）
6	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	Haratake N, Positive Conversion of the PD-L1 Expression After Treatments with Chemotherapy and Nivolumab, IASLC 18th World Conference on Lung Cancer in 2017 (Yokohama) 2017. 10. 16 横浜、ポスター
7	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Fujimoto Y</u> , Yoshizumi T, Inokuchi S, Yugawa K, Kawasaki J, Shimokawa M, Sakata K, Motomura T, Mano Y, Toshima T, Itoh S, Harada N, Ikegami T, Soejima Y, Maehara Y, Living donor liver transplantation for patients with solid organ malignancy; a series of 10 cases in a single institution. Asian Transplantation week 2017 (seoul) 2017. 10. 18-20. 22
8	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Tomonari Shimagaki</u> , Tomoharu Yoshizumi, Norifumi Harimoto, Sachiyo Yoshio, Takashi Motomura, Shinji Itoh, Noboru Harada, Toru Ikegami, Yuji Soejima, Masashi Mizokami, Tatsuya Kanto and Yoshihiko Maehara, AASLD The Liver Meeting, Washington DC, 2017, 2017. 10. 20~24, ポスター
9	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>Yuka Inoue</u> , Nami Yamashita, Hiroyuki Kitao, Kimihiro Tanaka, Hiroshi Saeki, Eiji Oki, Eriko Tokunaga, Yoshihiko Maehara, The clinical significance of the wild-type p53-induced phosphatase 1 (Wip1) expression in invasive breast cancer, ESMO Asia congress 2017, Singapore, 2017. 11. 11, 一般ポスター
10	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	<u>Shu Haseai</u> , Hidetaka Arimura, Misato Imai, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Hiroshi Honda, Saiji Ohga, Tomonari Sasaki, Computer-assisted treatment planning approach using similar cases for lung stereotactic body radiation therapy (Poster), 59th Annual Meeting of American Association of Physicists in Medicine (AAPM2017, Denver, USA), 2017. 07. 30-08. 03
11	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	<u>Kenta Ninomiya</u> , Hidetaka Arimura, Motoki Sasahara, Saiji Ohga, Yoshiyuki Umezumi, Hiroshi Honda, Tomonari Sasaki, Bayesian delineation framework of clinical target volumes for prostate cancer radiotherapy using an anatomical-features-based machine learning technique (Poster), SPIE medical imaging, (Houston, USA) 20180210-0215
12	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Matsukane R</u> , Hayashi M, Takahashi M, Aikawa H, Ouchi M, Okada H, Masuda S, Hamada A, Intra tumor analysis of trastuzumab distribution by PID staining, breakthrough method with high visibility and single cell quantification, American Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (ASCPT) 2018, Florida, US.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>木村信一</u> 、原田大志、柴原大典、土屋裕子、日高典子、大田恵一、大坪孝平、米嶋康臣、田中謙太郎、岡本勇、中西洋一、小細胞肺癌におけるTrkB、BDNFの発現の検討、第21回がん分子標的学会（福岡）、2017年6月14日～16日
2	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>木村信一</u> 、田中謙太郎、リウレンペン、柴原大典、土屋裕子、大田恵一、大坪孝平、米嶋康臣、岩間映二、原田大志、岡本勇、中西洋一、二つのuncommon EGFR mutation導入細胞株に対するEGFR-TKIの効果の検討、第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）、2017年7月27日～29日
3	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>池松祐樹</u> 、米嶋康臣、伊地知佳世、田中謙太郎、原田大志、岡本勇、松本幸一郎、中西洋一、ペンブロリズマブが奏功したG-CSF産生肺多形癌の一例、第79回日本呼吸器学会・日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫症学会（九州支部会、別府）、2017年9月23日
4	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>大村洋文</u> 、当科で経験した悪性パラガングリオーマの3例に対する全身化学療法、第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）2017年7月28日
5	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>中島健太郎</u> 、長谷川大輔、宮村能子、濱麻人、岩本彰太郎、照井君典、富澤大輔、足立壯一、多賀崇 ダウン症候群に発症した急性骨髄性白血病の臨床研究非登録例についての後方視的観察研究 第59回日本小児血液・がん学会学術集会（愛媛）2017年11月10日
6	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>吉弘知恭</u> 、二尾健太、土橋賢司、在田修二、安松隆治、孝橋賢一、有山寛、草場仁志、赤司浩一、馬場英司 パゾパニブが奏効した胞巣状軟部肉腫の1例 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）2017年7月27日
7	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>渋谷勇一</u> 、武本淳吉、久田正昭、宗崎良太、木下義晶、石井加奈子、都研一、孝橋賢一、大賀正一、田口智章、小田義直、小児精巣Leydig cell tumor の1例、第59回日本小児血液・がん学会、平成29年11月9日～11日、愛媛
8	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>宗崎良太</u> 、木下義晶、川久保尚徳、高橋良彰、吉丸耕一朗、松浦俊治、渋谷勇一、武本淳吉、孝橋賢一、小田義直、田口智章、肝芽腫肺転移巣・原発巣切除に対するICGナビゲーション、PSJM2017（第37回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会）平成29年10月26日～27日、神奈川
9	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>木下義晶</u> 、古賀友紀、宗崎良太、川久保尚徳、石井生、大場詩子、高田英俊、渋谷勇一、武本淳吉、孝橋賢一、小田義直、大賀正一、田口智章 1990年～2017年に治療を行った横紋筋肉腫50例の治療成績：単一施設からの発表 A review of 50 cases of rhabdomyosarcoma treated between 1990-2017: a report from the single institution, 第59回日本小児血液・がん学会 平成29年11月9日～11日、愛媛
10	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	<u>武本淳吉</u> 、孝橋賢一、 <u>渋谷勇一</u> 、宗崎良太、木下義晶、古賀友紀、大賀正一、田口智章、小田義直 腎明細胞肉腫におけるBCOR 遺伝子内縦列重複 第59回日本小児血液・がん学会 平成29年11月9日～11日、愛媛

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
11	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	宗崎良太、木下義晶、川久保尚徳、小幡 聡、 <u>渋井勇一</u> 、武本淳吉、孝橋賢一、小田義直、田口智章 腹腔鏡下に全摘しえた嚢胞性神経芽腫の3例 第30回日本内視鏡外科学会 平成29年12月7日～9日、京都
12	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	原田郁咲、 <u>吉弘知恭</u> 、二尾健太、土橋賢司、在田修二、有山寛、草場仁志、赤司浩一、馬場英司 骨髄癌腫症を呈した原発不明癌の1例 第318回日本内科学会九州地方会（鹿児島）2017年8月5日
13	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	下川穂積、大村洋文、川越志穂、梶谷竜裕、内野慶太 マルチキナーゼ阻害薬使用中のフレア現象に関する後ろ向き研究 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月
14	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	梶谷竜裕、大村洋文、川越志穂、熊谷穂積、内野慶太 当院における進行性腎細胞癌に対する1次・2次VEGFR-TKI sequential投与の現状 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月
15	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	川越志穂、内野慶太、大村洋文、梶谷竜裕、下川穂積、楠本哲也、池尻公二 切除不能進行・再発大腸癌における1次治療のRECIST縮小率の解析 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2017年7月
16	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	高森 信吉、豊川 剛二、高田 和樹、木下 郁彦、松原 太一、上妻 由佳、原武 直紀、赤嶺 貴紀、桂 正和、迎 伸孝、庄司 文裕、岡本 勇、岡本 龍郎、小田 義直、岩城 徹、飯原 弘二、中西 洋一、前原 喜彦、非小細胞肺癌における脳転移巣のPD-L1発現と臨床病理学的因子・予後の関係、第58回日本肺癌学会学術集会（横浜）（2017年10月14-15日ポスター）
17	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	赤嶺 貴紀、豊川 剛二、松原 太一、上妻 由佳、原武 直紀、高森 信吉、桂 正和、高田 和樹、田川 哲三、庄司 文裕、岡本 龍郎、前原 喜彦、直腸癌気管転移に対して気管切除再建術を施行した一例、第50回日本胸部外科学会（福岡）2017年7月27-28日、口演
18	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	原武 直紀、多発肺癌および肺内転移におけるPD-L1発現とEGFR遺伝子変異の解析、第70回日本胸部外科学会定期学術集会（札幌）2017年9月27-29日、ポスター
19	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	吉屋圭史、松田大介、山下勝、吉賀亮輔、松原裕、井上健太郎、古山正、松本拓也、前原喜彦、下肢動脈血管内治療用バルーンカテーテルの張力耐久性と安全性に関する応用力学的検証、第58回日本脈管学会総会（名古屋）2017年10月19-21日、ポスター
20	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	山下勝、黒瀬俊、井上健太郎、中山謙、吉賀亮輔、吉屋圭史、森崎浩一、古山正、前原喜彦、膝移植後仮性動脈瘤および腸骨動脈腸管瘻に対し多期的手術により救命した例、第110回日本血管外科学会九州地方会（宮崎）2017年8月26日、口演
21	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	山下勝、松本拓也、中山謙、吉賀亮輔、吉屋圭史、井上健太郎、森崎浩一、古山正、田中理子、米満吉和、前原喜彦、重症虚血肢に対する血管新生遺伝子治療が患者のQOLに及ぼす影響、第58回日本脈管学会総会（名古屋）2017年10月19-21日、ポスター
22	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	山下勝、中山謙、吉屋圭史、吉賀亮輔、森崎浩一、古山正、前原喜彦、破裂性腹部大動脈瘤における腸管虚血、急性期医療フォーラム（福岡）2018年3月2日、一般演題
23	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	中山謙、山下勝、吉賀亮輔、吉屋圭史、井上健太郎、森崎浩一、松本拓也、村上厚文、前原喜彦、vessel infectionの診断におけるプレセプシンの有用性、第58回日本脈管学会総会（名古屋）2017年10月19-21日、ポスター
24	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	下川雅弘、池上 徹、坂田一仁、本村貴志、間野洋平、戸島剛男、伊藤心二、原田 昇、播本憲史、副島雄二、吉住朋晴、前原喜彦、成人生体肝移植における臓器保存液還流によるグラフト重量変化の臨床的意義と組織学的検討、第72回 日本消化器外科学会総会（金沢）2017年7月20日-7月22日、一般演題（口演）
25	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	下川雅弘、池上 徹、坂田一仁、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田 昇、播本憲史、副島雄二、吉住朋晴、前原喜彦「成人生体肝移植におけるグラフト機能の指標としてのグラフト重量変化」第53回 日本移植学会総会（旭川）2017年7月9日-9月9日一般演題（口演）
26	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	下川雅弘、吉住朋晴、伊藤心二、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、原田 昇、播本憲史、池上 徹、副島雄二、前原喜彦、酸化ストレス応答因子Nrf2の肝細胞癌における発現の臨床的および生物学的意義、第76回 日本癌学会学術総会（横浜）2017年9月28日-9月30日（一般演題）
27	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	坂田一仁、吉住朋晴、本村貴志、長津明久、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦、生体肝移植ドナーの肝切除後肝再生におけるFibroblast growth factor 19の意義に関する研究、第72回日本消化器外科学会総会、（金沢）2017年7月20日～22日、一般演題 口演
28	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	川崎淳司、吉住朋晴、本村貴志、長津明久、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦、類洞様血管構造をもつHCCと生体肝移植後肝癌再発に関する研究、第72回 日本消化器外科学会総会（石川）2017年7月20日～22日（ミニオーラル）
29	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	川崎淳司、池田哲夫、大平将史、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、吉住朋晴、橋爪誠、前原喜彦、肝臓の膜解剖に基づいた腹腔鏡下系統的肝切除のテクニック、第27回九州内視鏡下外科手術研究会（福岡）2017年9月2日
30	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	川崎淳司、吉住朋晴、泉琢磨、井口詔一、湯川恭平、藤本侑希子、下川雅弘、坂田一仁、富野高広、大平将史、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、播本憲史、池上徹、副島雄二、前原喜彦、類洞様血管構造をもつ肝細胞癌と生体肝移植後肝癌再発に関する研究、第22回日本外科病理学会学術集会（栃木）2017年11月10日～11日、口演
31	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	川崎 淳司、吉住 朋晴、泉 琢磨、井口 詔一、湯川 恭平、藤本 侑希子、下川 雅弘、坂田 一仁、富野 高広、大平 将史、間野洋平、本村 貴志、戸島 剛男、伊藤 心二、原田 昇、播本 憲史、池上 徹、副島 雄二、前原 喜彦、類洞様血管構造をもつ肝細胞癌と生体肝移植後肝癌再発に関する研究、第28回日本消化器癌発生学会総会（熊本）2017年11/17-18、ポスター
32	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	島垣智成、播本憲史、由雄祥代、土肥弘義、本村貴志、長津明久、伊藤心二、原田 昇、池上 徹、副島雄二、溝上雅史、考藤達哉、吉住朋晴、前原喜彦、JDDW 2017 FUKUOKA（福岡）消化器外科学会2017年10月12日～15日、一般演題（口演）
33	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	湯川恭平、吉住朋晴、藤本侑希子、井口詔一、川崎淳司、坂田一仁、下川雅弘、大平将史、間野洋平、本村貴志、戸島剛男、伊藤心二、原田昇、池上徹、副島雄二、相島慎一、前原喜彦、肉腫様間質を伴う肝内胆管癌（癌肉腫）の1切除例、第28回日本消化器癌発生学会（熊本）平成29年11月18日、ポスター
34	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	枝廣圭太郎、北尾洋之、飯森真人、中西良太、中島雄一郎、杉山雅彦、佐伯浩司、沖英次、前原喜彦、FTD耐性化におけるピリミジン合成経路に関わるThymidine kinase 1発現の意義、第72回日本消化器外科学会総会（石川）2017年7月20日-22日、ポスター
35	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	胡 慶江、増田隆明、吉川幸宏、木戸上真也、南原 翔、林 直樹、黒田陽介、伊藤修平、江口英利、前原喜彦、三森功士、Identification of OSBPL3 as a candidate driver gene using public datasets and its biological significance in gastric cancer、第72回消化器外科学会総会（金沢）2017年7月20-22日、ミニオーラル
36	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	胡 慶江、三森功士、細胞融解活性スコア（Cytolytic activity score）の胃癌における臨床的意義、第15回臨床腫瘍学会学術集会（神戸）2017年7月27-29日、ポスター

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
37	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	胡 慶江、増田隆明、野田美和、吉川幸宏、脇山浩明、神山勇太、佐藤晋彰、齋藤衆子、林 直樹、黒田陽介、伊藤修平、江口英利、三森功士、Identification of OSBPL3 as a candidate driver gene using public datasets and its biological significance in gastric cancer, 第76回日本癌学会学術総会(横浜) ポスター2017年9月28-30日
38	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	井上 有香、山下 奈真、徳永えり子、田中 仁寛、北尾 洋之、佐伯 浩司、沖 英次、前原 喜彦、Clinical significance of the wild-type p53-induced phosphatase 1 (Wip1) expression in invasive breast cancer, 第76回日本癌学会学術総会(横浜) 2017年9月28日、一般ポスター
39	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	井上 有香、山下 奈真、佐伯 浩司、沖 英次、徳永えり子、前原 喜彦、乳癌術前化学療法症例におけるstromal tumor infiltrating lymphocytesの臨床的意義, 第55回日本癌治療学会学術集会(横浜), 2017年9月28日、一般口演
40	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	井上 有香、山下 奈真、佐伯 浩司、沖 英次、徳永えり子、前原 喜彦、乳癌術前化学療法症例におけるstromal tumor infiltrating lymphocytesと治療効果に関する検討, 第22回日本外科病理学会学術集会(宇都宮) 2017年11月11日、シンポジウム
41	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	是久翔太郎、沖 英次、飯森 真人、中西 良太、中司 悠、佐々木 駿、城後友望子、廣瀬 皓介、枝廣圭太郎、谷口 大介、藏重 淳二、中島雄一郎、杉山 雅彦、佐伯 浩司、小田 義直、前原 喜彦、マイクロサテライト不安定性を示す(MSI-H)大腸癌におけるPD-L1 発現と局在の検討, 第72回日本消化器外科学会総会(金沢) 2017年07月21日、ミニオーラル
42	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	是久翔太郎、中西 良太、沖 英次、工藤 健介、本村 貴志、久保 信英、安藤 幸滋、中島雄一郎、佐伯 浩司、吉住 朋晴、前原 喜彦、原発巣の部位（右側/左側）から見た大腸癌肝転移症例の予後予測因子の検討, 第42回日本大腸肛門病学会九州地方会(熊本) 2017年9月6日、パネルディスカッション
43	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	是久翔太郎、沖 英次、飯森 真人、佐伯 浩司、小田 義直、前原 喜彦、マイクロサテライト不安定性を示す(MSI-H)大腸癌におけるPD-L1 発現と局在の検討, 第22回外科病理学会学術集会(宇都宮) 2017年11月10日、一般口演
44	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	是久翔太郎、沖 英次、飯森 真人、佐伯 浩司、小田 義直、前原 喜彦、マイクロサテライト不安定性を示す(MSI-H)大腸癌におけるPD-L1 発現と局在の検討, 第28回日本消化器癌発生学会(熊本) 2017年11月18日、一般口演
45	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	佐々木 駿、沖 英次、佐伯 浩司、小田 義直、前原 喜彦、消化管神経内分泌腫瘍(NET)に対する治療成績 The treatment outcome for the gastrointestinal neuroendocrine tumor (NET) in our hospital: a review of 14 cases., 第28回消化器癌発生学会総会(熊本) 2017年11月18日、一般ポスター
46	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	城後友望子、沖 英次、工藤 健介、中西 良太、久保 信英、安藤 幸滋、中島雄一郎、佐伯 浩司、蓑田 洋介、伊原 栄吉、藤原美奈子、小田 義直、前原 喜彦、長期経過観察中に急速に増大傾向を呈した嚢胞形成性歯門部異所性腺の1切除例, 第22回日本外科病理学会学術集会(宇都宮) 2017年11月10日、一般口演
47	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	城後友望子、沖 英次、工藤 健介、中西 良太、久保 信英、安藤 幸滋、中島雄一郎、梶島 章、佐伯 浩司、小田 義直、前原 喜彦、胃癌におけるCD44v9の発現と化学療法感受性バイオマーカーとしての意義についての検討, 第28回日本消化器癌発生学会総会(熊本) 2017年11月17日、一般ポスター
48	がん専門医師養成コース（H30新コース移行予定）	廣瀬 皓介、佐伯 浩司、中島雄一郎、枝廣圭太郎、是久翔太郎、谷口 大介、工藤 健介、中西 良太、安藤 幸滋、梶島 章、沖 英次、森田 勝、小田 義直、前原 喜彦、扁平上皮癌成分を伴う食道神経内分泌細胞癌の2切除例, 第28回消化器癌発生学会総会(熊本) 2017年11月17日、一般ポスター
49	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	Ayano Shoji, Keishin Morita, Naoki Hashimoto, Yuji Tsutsui, Kazuhiko Himuro, Shingo Baba, Masayuki Sasaki. The characteristics of parameters in texture analysis for evaluating heterogeneity. 第37回日本核医学技術会総会学術大会(横浜市) 平成29年10月5日-7日.
50	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	Saki Kimoto, Naoki Hashimoto, Ayano Shoji, Yuji Tsutsui, Kazuhiko Himuro, Shingo Baba, Masayuki Sasaki. The evaluation of the spatial resolution of <sup>64</sup> Cu-PET images using a clinical PET/CT scanner. 第37回日本核医学技術会総会学術大会(横浜市) 平成29年10月5日-7日.
51	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	Naoki Hashimoto, Saki Kimoto, Keishin Morita, Yuji Tsutsui, Kazuhiko Himuro, Shingo Baba, Masayuki Sasaki. The effect of a smoothing filter on small lesion detectability with a clinical PET/CT. 第37回日本核医学技術会総会学術大会(横浜市) 平成29年10月5日-7日.
52	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	下川夏実、赤松剛、門崎都、庄司彩乃、橋本直樹、木本沙希、廣瀬智哉、佐々木雅之、アミロイドPET定量評価における関心領域の違いの影響、第12回九州放射線医療技術学術大会、第66回(社)日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会(鹿児島)、平成29年11月18日~19日
53	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	門崎都、赤松剛、下川夏実、庄司彩乃、橋本直樹、木本沙希、廣瀬智哉、佐々木雅之、アミロイドPETにおける視覚評価と定量評価の比較検討、第12回九州放射線医療技術学術大会、第66回(社)日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会(鹿児島)、平成29年11月18日~19日
54	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	廣瀬智哉、筒井悠治、橋本直樹、木本沙希、庄司彩乃、門崎都、下川夏実、氷室和彦、馬場真吾、佐々木雅之、PET画像の散乱線含有率へのTOF情報および散乱線補正の影響、第12回九州放射線医療技術学術大会、第66回(社)日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会(鹿児島)、平成29年11月18日~19日
55	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	二宮健太、有村 秀孝、笹原基希、廣瀬貴章、大賀 才路、梅津芳幸、本田 浩、佐々木智成、前立腺癌放射線治療における臨床標的体積の自動抽出法(口頭)、第36回日本医用画像工学会大会JAMIT2017(岐阜)、20170727-0729
56	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	笹原基希、有村秀孝、#廣瀬貴章、#二宮健太、柴山祐亮、大賀才路、福永淳一、梅津芳幸、本田浩、佐々木智成、前立腺癌放射線治療における腫瘍ベース患者セットアップ法の検討(Oral)、医用画像情報学会(MII)平成29年度春季(第180回)大会(岐阜)、2018.01.27
57	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	松川 英明、佐々木智成、平山 亮太、廣瀬 貴章、福永 淳一、子宮頸癌小線源治療における線量評価点(B点)との解剖学的位置とDVHIに関する研究 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会(大阪) 平成29年11月17-20日
58	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	笠井 裕貴、村山 鈴奈、福山 幸秀、寺嶋 廣美、川村 慎二、佐々木 智成 TomoDirectを用いた全身照射(TBI)における門数と評価指標に関する検討 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会(大阪) 平成29年11月17-20日
59	先端医用量子線技術科学コース（H30新コース移行予定）	村山 鈴奈、笠井 裕貴、福山 幸秀、寺嶋 廣美、佐々木 智成 TomoDirectによる全身照射の臨床応用可能性の検証 第66回(社)日本放射線技術学会九州部会学術大会、第63回九州放射線技師学術大会(鹿児島)、平成29年11月18日~19日
60	がん専門細胞検査士コース修士課程	臼井美奈、乳腺細胞診におけるセンチネルリンパ節への転移の有無と細胞像の比較検討、第56回日本臨床細胞学会秋季大会(福岡)平成29年11月18日



「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
61	がん専門細胞検査士コース修士課程	<u>近藤守</u> . 培養日数と二核細胞の変化に関する検討. 第56回日本臨床細胞学会秋季大会（福岡）平成29年11月18日
62	がん専門細胞検査士コース修士課程	<u>森山拓人</u> . BCG failure症例の自然尿細胞診に出現する異型細胞の形態学的検討. 第56回日本臨床細胞学会秋季大会（福岡）平成29年11月18日
63	がん専門細胞検査士コース修士課程	<u>前田裕亮</u> . BCG曝露におけるT24細胞のp21発現へのp27の影響-タンパク質発現の判定の客観化-. 第56回日本臨床細胞学会秋季大会（福岡）平成29年11月18日
64	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>松金 良祐</u> , <u>林 光博</u> , <u>相川 博明</u> , <u>濱田 哲暢</u> . 新規組織診断技術HSTTの組織内薬物動態解析への応用と評価, 第38回日本臨床薬理学会学術総会(横浜), 2017年12月7日～9日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん研究薬剤師コース博士課程	<u>松金 良祐</u> , <u>林 光博</u> , <u>相川 博明</u> , <u>濱田 哲暢</u> . 新規組織診断技術HSTTの組織内薬物動態解析への応用と評価, 第38回日本臨床薬理学会学術総会(横浜), 2017年12月7日～9日 優秀演題賞(口演)



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	福岡大学
コーディネーター	高松 泰
事務担当者	倉原康輔

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

ライフステージに応じたがん対策を推進することを目的に、医師、看護師、薬剤師を対象とした多職種人材を養成する体制作りを行った。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がん診療に携わる体制整備として、抗がん薬曝露に関する意識調査を行った。その結果、知識が不十分な者が多いことが分かり、抗がん薬の暴露対策に関する勉強会を開始した。  
 続いて多診療科、多職種が協力して診療に携わる必要がある免疫チェックポイント阻害薬治療に関して、勉強会および症例検討会を開始した。  
 今後は高齢者のがん医療に関する専門的知識、技術の習得を目指す。

## 2. 各事業の取り組み状況

<b>①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>
大学院コースは来年度から受け入れ開始。 インテンシブコースとして勉強会を開始し、別表の参加者を得た。
<b>②シンポジウム、セミナー、講習会等</b> <b>※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。</b>
がんセミナー(共催)を開催し、多くの医療従事者、地域の方々に参加いただいた。
<b>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>
ホームページを作成、公開した。今後社会への発信を増やしていく。
<b>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</b>
福岡県がん診療連携拠点病院である九州がんセンターと共同で、医師、看護師、薬剤師が参加してがん診療に関する勉強会を開催した。（2017年7月6日、2018年1月25日）
<b>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</b>
今年度(3月)に、がん患者の就労支援に関する勉強会を予定している。

## 3. 自己評価

<b>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</b>
c
<b>理由・分析等</b>
多職種が共同でがん診療のプロフェッショナル養成を目指す基盤を構築した。
<b>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</b>
2018年度からは、ライフステージに応じたがん対策、中でも高齢者のがん診療に焦点をあて、多職種で人材育成に取り組む予定である。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	久留米大学
コーディネーター	赤木 由人、原 頼子
事務担当者	坂田 要

## 1. 概要

<b>達成目標 ※工程表の内容を転記(編集不可)</b>
<p>○達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。</p> <p>○達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。</p> <p>○達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。</p>

<b>達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。</b>
<p>○達成目標1:九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。</p> <p>平成30年度より大学院博士課程に「希少がん診療養成コース」を設置するための準備を行った。</p> <p>○達成目標2:ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。</p> <p>平成30年度よりCNS大学院コースとインテンシブコースに開講する科目「がん緩和ケア地域連携教育論」の教育内容と担当教員の決定をした。教育目標としているのは、1.施設や地域を越えた在宅医療の推進に向けて、がん患者と家族を中心とした地域ケアシステムの中で多職種との調整力を持ち、ベストプラクティスを導き出せる力を持った医療従事者を育成する、2.広い視野から、がんの予防教育およびその人らしい暮らしができるように療養システムを整え、リーダーとなれる人材を育成する、の2つである。</p> <p>○達成目標3:ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。</p> <p>①希少癌の中でも、本学で経験した疾患やこれから経験するであろう疾患の診療実績経験者を選出し、今後の講義や講演の依頼を行った。</p> <p>②希少癌に関する臨床的、基礎的データを収集し検討中である。</p>
<b>実績を踏まえた成果(学生教育の観点での成果について記載すること)</b>
<b>※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。</b>
平成30年度以降の受け入れ予定であり、今後入学者の確保に努める。

## 2. 各事業の取り組み状況

<b>①教育コース(大学院コース、インテンシブコース) ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>
<p>平成30年度より大学院博士課程に「希少がん診療養成コース」を設置するための準備を行った。</p> <p>平成29年度のCNS大学院コース入学者に対し、教育課程内容の充実のために科目内容の見直し、および教育方法、指導方法として自ら学ぶことを中心に小集団学習、アクティブラーニングの手法を取り入れ、教育の質改善を試みている。また、佐賀大学との協同で、九州がんプロ内でのがんプロe-learningの作成を行っていくこととなった。</p>
<b>②シンポジウム、セミナー、講習会等</b>
<b>※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。</b>
<b>○がんプロセミナー(平成29年10月15日開催)</b>
<p>タイトル 「組織と地域ならびにがん看護専門看護師との連携」ーライフステージに応じたがん患者支援のためにー</p> <p>平成29年10月15日(土)10:00より、久留米大学医学部看護学科講義室11にて、大阪大学医学部附属病院 がん看護専門看護師</p>

田墨恵子先生を講師に「久留米ネットワークの会セミナー」を開催した。「変革者としての専門看護師の活動展開－Try and Errorの中で見えてきた課題」というサブテーマで、変革者としてのMind、変革するためのシステムの理解、CaringとEBM実践、CNSとして際立つということ、生活を支援するという視点の内容でご講演をいただき、ネットワーク会員や大学院生学生をはじめ、看護学科教員約20名が参加した。また、セミナーの後には、講師を交えたディスカッションの中で、講師の田墨先生が管理者でありながら、CNSとしての役割をどのように実践されているのかについて伺い、次に、ライフステージがん患者の強みを発揮するために必要な実践について、多職種でどのようにアプローチしていくと良いのか等を含めて活発な議論を行った。

#### ○がんプロセミナー大学院特別講義(平成29年11月2日開催)

平成29年11月2日18:00より、久留米大学医学部臨床研究棟2階カンファレンスルームにて、埼玉県立がんセンター腫瘍診断・予防科部長である赤木究先生を講師に「遺伝性腫瘍の新たな潮流」という演題のもとご講演をいただいた。教職員・大学院生を中心に約30名が参加した。

#### ○市民公開講座(平成30年1月13日)

平成30年1月13日(土)13:30から16:00まで、福岡市天神のイムズホールにて市民公開講座を開催しました。当日は一般市民約100名(主催者関係者を除く)が参加しました。開催に先立ち、先端癌治療研究センター所長の山田亮教授から挨拶があり、今回平成29年度の「私立大学研究ブランディング事業」に「すこやかな『次代』と『人』を創る研究拠点大学へ～先端がん治療・研究による挑戦～」事業で採択されたことが紹介されました。講演では、まず「久留米大学で独自開発された新規がん治療法」である「テラーメイドがんペプチドワクチン療法」について先端癌治療研究センター所長でワクチン分子部門長の山田亮教授が、「肝癌New FP療法」について先端癌治療研究センター肝癌部門の古賀浩徳教授が説明を行いました。続いて、「男女ともに増加する大腸の病気」について、内科的な側面から医学部内科学講座・炎症性腸疾患センターの光山慶一教授が、外科的な側面から、先端癌治療研究センター分子標的部門の赤木由人教授が説明を行いました。講演のあと「消化器の病気と生活習慣」と題して、講演者と司会者 松田恵理さん(福岡ソフトバンクホークスの松田宣浩選手の奥様)も交えてパネルディスカッションを行いました。野菜ソムリエの資格もお持ちの松田さんの「松田選手の体調を管理するため、食事を作る際に気をつけていること」に関する話題から、腸内フローラなどの話や、健康によい食生活や運動習慣などに話が広がりました。会場から質問も数多くあり、参加された皆さまの健康に対する関心の高さがうかがわれました。

#### ○研修会(平成30年3月17日～18日開催予定)

平成30年3月17日～18日にかけて久留米大学病院本館東棟2階会議室においてコミュニケーション技術研修会を開催予定である。内容としては、全ての世代のがん患者が納得した上で安心して治療を受けることができるように、患者・医師間のより一層の良好なコミュニケーションを目指して、悪い知らせの伝え方を軸としたコミュニケーション技術を学ぶための研修会を行う。がん対策基本法に基づいて策定されたがん対策推進基本計画に、「医師のコミュニケーション技術の向上につとめる」が盛り込まれており、大学院がんプロ教員のファカルティディベロップメントの一環としている。

#### ○がんプロセミナー(平成30年3月開催予定)

テーマ「がんスクリーニングを活用し、ライフステージに沿った支援を提供するために」とし、参加人数は20～30名、参加機関は10機関を目標としている。

#### ③地域や社会への情報発信の取り組み(ホームページ、SNS等の実績含む)※別表「数値実績一覧」も参照して記述

医学研究科HPの更新、医学研究科Facebookでの発信を行なっている。医学研究科(がんプロを含む)として、医学研究科の紹介や学生募集に関する情報が記載された名刺を作成し最寄駅構内(西鉄久留米駅)に置場を設置。広報活動に取り組んでいる。また、本大学のCNS養成課程修了生で構成される久留米ネットワークのメーリングシステムがあり、地域や社会への情報発信の手段は、メーリングシステムを使用し、がん看護専門看護師として所属する地域のがん診療連携拠点病院、在宅訪問看護ステーション等に発信している。

#### ④大学関連病院との連携(特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して)

現在、資料の検討中であり、研究内容を決定後に情報を公開して、各診療の担当者との情報交換を依頼する。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

高齢がん患者のQOLを尊重したがん治療の決定のために、高齢者の意思決定支援には身体機能、認知機能および栄養状態等の包括的視点から意思決定能力を評価することが必要であり、その知識を得るための勉強会を開く予定である。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

一部では目標を達成できているためb～c

#### 理由・分析等

専任の事務担当者が不在。情報収集がスムーズに進んでいない。  
ライフステージにおけるがん患者支援に関しては勉強会、セミナー、ネットワークの中での情報共有を行っていると考える。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

担当教員と研究テーマや実施計画書を策定する。

資料整理や事務、行事のコーディネーター等を担当する人員募集を検討。

大学院生確保のための広報活動。

がんプロ大学院コースの入学生については、履修単位が38単位になり、就労しながら大学院で学ぶことに不安がある人には、まずインテンシブコースで、科目履修の単位修得を増やす方法もあることを伝え、学び方改革についての情報提供を行って行く必要がある。





## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	佐賀大学
コーディネーター	小島研介
事務担当者	諸隈裕基

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

佐賀大学では、地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成するため、統合的地域がん治療専門医／統合的地域がん治療専門医育成コースを設置した。平成30年度に、新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランを開講するにあたり、ライフステージに関する、以下の講師を佐賀大学に招いてご講演をいただいた（達成目標1-3）。

- ・京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室准教授 上野 博司先生
- ・愛媛県立中央病院 小児医療センター長 石田 也寸志先生
- ・新国内科医院 看護師長 宇野 さつき先生
- ・兵庫県立粒子線医療センター 副院長 徳丸 直郎 先生

ゲノム医療や小児・希少がん教育（達成目標3）については、佐賀大学がんプロコースの主目標ではないが、小児科領域から小児がん治療後の晩期合併症は成人期における重要な臨床的問題であることから、講演会を開催した。2回の講演では地域の10以上の医療機関から50名程度の参加を得た。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

佐賀大学では平成30年度に、新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランを開講予定であり、現時点でコース履修者の教育効果を評価することはできないが、準備期間に2回開催した平成29年度のがんプロ講演（2017年9月7日と2018年1月11日に、4名の講師を招聘して開催）では、おおむね50名の参加者に対して、5名程度の学生の参加を得ている。学生の視点を広げ、キャリア教育、キャリア形成に役立つことを期待するとともに、将来、彼らのがんプロコース履修につながればと期待している。

## 2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
1. 統合的地域がん医療人育成コース 2. 統合的地域がん治療専門医育成コース
②シンポジウム、セミナー、講習会等 ※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。
第1回 がんプロセミナー（9/7/2017開催） 参加者 49名 第2回 がんプロセミナー（1/11/2018開催） 参加者 51名
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
九州がんプロホームページで、がんプロセミナー開催を周知いたしました。
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
地域のがん診療拠点病院、小児がん拠点病院とは、通常診療においても特に連携を心がけているところであるが、がんプロセミナー開催については、これら施設に対しても個別に開催の案内をおこない、がん診療に携わる医療者の参加を得た。
⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。
がんプロ講演の講師に、京都府立医科大学疼痛・緩和医療学教室准教授 上野 博司先生、愛媛県立中央病院 小児医療センター長 石田 也寸志先生をお迎えし、将来を見据えた地域での難治性疼痛の緩和、小児がんサバイバーの長期管理に焦点をあてた地域がん教育をおこなった。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b: 目標を達成できている
理由・分析等
地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成するために、佐賀大学に求められている教育貢献はできているものと考えている。平成30年度に、新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランの開講する。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
佐賀大学では大学院教育は医学においてのみおこなっているが、地方大学であることと相俟って、大学院進学者の母数が少ない。がんプロコース履修者のリクルートに苦勞すると予想される。現在も大学院追加募集中であるが、平成30年度の履修予定は1-2名と予想される。がんチーム診療を構築する地域医療人を広く養成するとともに、潜在的受講生への公知のため、来年度は2回のがんプロ講演会を予定する。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	長崎大学
コーディネーター	医歯薬総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤和人
事務担当者	医歯薬総合研究科 学務課（大学院） 主査 村上陽介

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## ○達成目標1

- ・多様な新ニーズに対応する専門医療人を養成するため、大学院コース内での様々な内容のe-learningの聴講や化学療法・緩和ケアを中心とした実習を行った。
- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、ゲノムに関する講演会を学内で2回開催した。さらに、ゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っている複数の施設に、がんプロの教員やスタッフが訪問研修を行った。

## ○達成目標2

- ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会を3回共催し、がんプロの教員や大学院生が参加した。今後、さらに、放射線治療と在宅緩和ケアに関する研修会を年度内に開催予定である。
- ・大学院生は化学療法および緩和ケアに関する実習を行い、チーム医療、多職種連携の重要性を学んだ。
- ・ライフステージに応じたがん専門医療人の育成のために、第2期がんプロで行ってきた離島・僻地実習や在宅医療実習を継続して行った。

## ○達成目標3

- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、ゲノムに関する講演会を学内で2回開催した。さらに、ゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っている複数の施設に、がんプロの教員やスタッフが訪問研修を行った。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・達成目標に対する実績に記載したように、ゲノム医療に関する講演会や、大学病院がん診療センター主催の研修会、化学療法および緩和ケアに関する実習を通して、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、これまでの離島・僻地実習や在宅医療実習を行うことで、地域医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を継続している。今後の学生のキャリア教育として、これらの取り組みを継続すると同時に、ゲノム医療に関しては、病院内に設置予定の「ゲノム診療センター」での実習等を行っていく予定である。

## 2. 各事業の取り組み状況

## ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・今年度、本コースへの学生受入はなかったが、がんプロ担当の教員やスタッフを学外の専門施設や学会等へ積極的に参加させることで、がんゲノム医療やライフステージに応じたがん治療に関する最新の知見を修得し、今後の大学院学生の教育・指導の準備を行った。

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

## ※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんゲノム医療やライフステージに応じたがん治療に関する講演会、研修会を複数回開催した。</li> <li>・がんゲノム医療をテーマとした長崎大学がんプロ記念講演会では、テレビ会議システムを用いて、他大学で同時聴講を行った。</li> </ul>
<p><b>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、大学病院のがん診療センターが主催するがん関連の県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催し、がんプロ担当教員の講演等で、県民への情報発信を行なっている。</li> <li>・がんプロ大学院生の離島・僻地実習や在宅医療実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域のがん医療に貢献する大学院生の活動を情報発信している。</li> </ul>
<p><b>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会やがん関連の県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。</li> <li>・大学院生に対して、病院内での化学療法および緩和ケアに関する実習を行い、チーム医療、多職種連携の重要性を学んでもらった。</li> <li>・病院内の緩和ケアチームやカンサーボードに大学院生が積極的に参加し、さらに県がん診療連携協議会にもとに、離島・僻地実習や在宅医療実習等を含めて、病病連携、病診連携を強化するように努力した。</li> </ul>
<p><b>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じたがん診療の充実を図るため、大学院生に対して第2期がんプロで行ってきた離島・僻地実習や在宅医療実習を継続して行っている。また、緩和医療をより地域に普及させるために、新たに在宅緩和医療に関する講演会を年度末に予定しており、今後、継続的に実施する予定である。</li> </ul>

### 3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>c:あと少しで目標を達成できる</p>
<p><b>理由・分析等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、本コースへの学生受入はなかったが、第2期がんプロまでの大学院生に対して、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を目的として、種々の研修会、講演会の開催、化学療法および緩和ケアに関する実習、離島・僻地実習や在宅医療実習などを行ってきた。また、ゲノム医療の臨床実装に向けて、ゲノムに関する講演会の開催や、ゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っている複数の施設に、がんプロの教員やスタッフが訪問研修を行った。</li> </ul>
<p><b>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度より新コースを開講するので、積極的な学生の受入を行い、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成していきたい。</li> <li>・がんゲノム医療や小児・希少がん、ライフステージに応じたがん診療を推進する多職種人材養成のためには、単施設での講演会やセミナーのみでは充分ではなく、今後はテレビ会議システムを有効活用し、他大学で同時聴講を行うことで情報共有に努める必要がある。</li> <li>・ゲノム医療に関しては、大学院生に対して病院内に設置予定の「ゲノム診療センター」での実習等を行っていく予定である。</li> </ul>

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	熊本大学
コーディネーター	馬場 秀夫
事務担当者	黒江 彩夏

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## 【大学院コース】

今年度は5名のコース生を受け入れ、目標を上回る実績を残すことができた。また、がん研究に携わる教員や後期研修医を学外調査へ積極的に参加させることで、がん治療に関する最新の見地を修得し、九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成するための土壌を整えている。

また、教員ががん治療・研究に関する最新の見地を得るためにテキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターへ赴いた。そこで得られた見地を日々の指導に活かすことで、新・旧がんプロコース生へ情報を提供することができた。

## 【インテンシブコース】

小児、壮年、高齢者といった異なるライフステージにおけるがん治療に対して、抗がん剤治療の効能・効果及び副作用モニタリングができ、質の高いがん薬物療法を推進することができる薬剤師を養成するために、今年度はセミナーを複数回開催し熊本大学での薬剤師養成のがんプロがスタートしたことをアピールした。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## 【大学院コース】

今年度は旧がんプロコース生のうち6名が外科専門医、1名ががん治療認定医資格を取得しており、大学院修了後がん専門医療人材として即戦力となることが期待できる。

また、コース生(旧コース生を含む)へ今年度の事業実施に関するアンケートを実施したところ、がんプロ事業は専門医として研鑽するにあたり、「非常に役に立っている」が30.8%、「多少役に立っている」が69.2%、「ほとんど役に立っていない」が0%という結果となり、ほとんどのコース生の専門性を高めるために貢献できていると言える。

## 【インテンシブコース】

今年度は、がん薬物療法の全般的知識の理解を目的としたセミナーを通じ、薬剤師や薬学部生を中心に、がん薬物療法の現状およびがん治療における課題を明確にし、これらの課題を克服するために存在する、がん専門薬剤師・がん薬物療法専門医制度などを紹介し、がん治療の最適化・治療効果の最大化にいかにして医師・薬剤師が貢献しているかに関して理解が深まった。

## 2. 各事業の取り組み状況

## ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

## 【大学院コース】

学会発表などへの旅費援助を行うことで、研究発表及び知識習得の機会を創出することができた。さらに、教員の学外調査も積極的に行い、最新の研究を取り入れた指導ができる体制を整えた。また、次年度より正式に旧がんプロから新がんプロへコース生を移行させることとし、密な研究指導・研究支援を継続するための準備を整えた。

## 【インテンシブコース】

来年度開講に向けて、複数回セミナーを開催し内容について検討を行った。また、来年度の受講生用にセミナーの回数及び講習会等について、検討を開始した。

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

## ※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

<p>【大学院コース】</p> <p>7回のシンポジウム・セミナー等を実施し、合計で約680人の参加があった。特に、第28回日本消化器癌発生学会会議、第6回国際消化器癌発生学会との共催で開催したセミナーでは、佐谷信行先生(慶應義塾大学)、甲斐弘文先生(熊本大学)、松村保広先生(国立がん研究センター)、大島正伸先生(金沢大学)という一流の講師陣に最先端の研究成果についてご講演頂いた。</p> <p>【インテンシブコース】</p> <p>5回のセミナーを実施し、合計で約90人の参加があった。セミナーでは、医師、薬剤師、がん研究者、学部・大学院生等の多職種を対象とし、講師として、熊本大学医学部附属病院外来化学療法センター長・陶山浩一先生、九州大学病院副薬剤師部長・渡邊裕之先生、神戸市立医療センター中央市民病院・池末裕明先生(元九州大学病院)に、九州内でのがん薬物療法専門医・がん専門薬剤師の取り組みについてご紹介いただいた。さらに、がん全般の知識に加え、熊本大学大学院生命科学研究部泌尿器科学分野・神波大己先生には、高齢者に頻発する泌尿器癌の薬物療法についてのセミナーを通して、ライフステージに応じたがん対策、希少がんにおける最新の治療についてご指導いただいた。</p>
<p>③地域や社会への情報発信の取り組み(ホームページ、SNS等の実績含む) ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p>
<p>【大学院コース】</p> <p>セミナー等について、九州がんプロWebサイトを通じて広く周知をおこなった。さらに、第28回日本消化器癌発生学会会議、第6回国際消化器癌発生学会との共催で開催したセミナーでは、ホームページでの情報発信を行った。今後は、医療従事者以外を対象とした講演会などを開催することにより、地域がん医療貢献を目指していきたい。</p>
<p>④大学関連病院との連携(特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して)</p>
<p>【大学院コース】</p> <p>セミナーには大学関連病院から多くの医療従事者が参加し、情報を共有することができた。</p>
<p>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</p>
<p>【大学院コース】</p> <p>緩和ケアに関する教育体制が構築できていないことが今後の課題と考えられる。本学附属病院では緩和ケアセンターの運用が開始されており、様々な講演会を開催していく予定であるので、それらと連携を取りながら更なる教育基盤の構築を目指す。</p>

### 3. 自己評価

<p>【選択肢】 a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>【大学院コース】 b:目標を達成できている / 【インテンシブコース】 b:目標を達成できている</p>
<p>理由・分析等</p>
<p>【大学院コース】</p> <p>受入コース生及びセミナー動員数などに関し、目標値を上回る実績を残すことができている。また、教員・新旧コース生などのがん治療に関する知識を深める機会を多数設けることができ、がん専門人材を養成するための取り組みができたと言える。</p> <p>【インテンシブコース】</p> <p>コース生受入に向け、具体的な教育内容の検討や、目標を上回るセミナー実施回数・参加人数を達成できており、来年度に向けて着実に準備が出来ている。</p>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p>
<p>【大学院コース】</p> <p>学内外へ新がんプロの取り組みについて周知し、コース生の受入増加に努める。</p> <p>【インテンシブコース】</p> <p>受講生を集める工夫を今後計画していくことが必要。</p>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	熊本大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Sakamoto Y.</u> , Hiyoshi Y, Sakata K, Toyama T, Takata N, Yoshinaka I, Harada K, Baba H. Case of cecal volvulus successfully treated with endoscopic colopexy. Asian journal of Endoscopic Surgery, 2018
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Kiyozumi Y.</u> , Yoshida N, Ishimoto T, Yagi T, Koga Y, Uchihara T, Sawayama H, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Watanabe M, Matsuyama T, Oya N, Baba H. Prognostic Factors of Salvage Esophagectomy for Residual or Recurrent Esophageal Squamous Cell Carcinoma After Definitive Chemoradiotherapy. World journal of Surgery, 2017
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Tsukamoto M.</u> , Nitta H, Imai K, Higashi T, Nakagawa S, Okabe H, Arima K, Kaida T, K Taki, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, Baba H. Clinical significance of half-lives of tumor markers $\alpha$ -fetoprotein and des- $\gamma$ -carboxy prothrombin after hepatectomy for hepatocellular carcinoma. Hepatology Research, 2017
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Tsukamoto M.</u> , Yamashita Y, Imai K, Umezaki N, Yamao T, Okabe H, Nakagawa S, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Yoshizumi T, Maehara Y, Baba H. Predictors of Cure of Intrahepatic Cholangiocarcinoma After Hepatic Resection. Anticancer Res, 2017, 37 (12) 6971-6975
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Yamao T.</u> , Imai K, Yamashita YI, Kaida T, Nakagawa S, Mima K, Hashimoto D, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H. Surgical treatment strategy for hepatocellular carcinoma in patients with impaired liver function: hepatic resection or radiofrequency ablation? HPB (Oxford). 2017 Oct 5. pii: S1365-182X(17)30936-X. doi: 10.1016
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	Arima K, Yamashita YI, Hashimoto D, Nakagawa S, Umezaki N, <u>Yamao T.</u> , Tsukamoto M, Kitano Y, Yamamura K, Miyata T, Okabe H, Ishimoto T, Imai K, Chikamoto A, Baba H. Clinical usefulness of postoperative C-reactive protein/albumin ratio in pancreatic ductal adenocarcinoma. Am J Surg. 2017 Aug 26. pii: S0002-9610(17)31158-3. doi: 10.1016/j.amjsurg.2017.08.016.
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	Miyata T, Okabe H, Chikamoto A, <u>Yamao T.</u> , Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Arima K, Nakagawa S, Imai K, Hashimoto D, Yamashita YI, Baba H. A long-term survivor of hilar cholangiocarcinoma with resection of recurrent peritoneal dissemination after R0 surgery: a case report Surg Case Rep. 2017 Oct 16;3(1):110. doi: 10.1186/s40792-017-0386-z.
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Yagi T.</u> , Baba Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H. PD-L1 Expression, Tumor-infiltrating Lymphocytes, and Clinical Outcome in Patients With Surgically Resected Esophageal Cancer. Ann Surg. 2017 Dec 4. doi: 10.1097/SLA.0000000000002616. [Epub ahead of print]
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	Ogata K, Takamori H, <u>Umezaki N.</u> , Yagi T, Ogawa K, Ozaki N, Hayashi H, Tanaka H, Ikuta Y, Doi K. J Gastrointestinal perforation during regorafenib administration in a case with hepatic metastases of colon cancer. Chemother. 2017 Oct;29(5):314-316
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	Matsumura K, Hashimoto D, <u>Umezaki N.</u> , Nakagawa S, Chikamoto A, Yamashita Y, Ikeda O, Yamashita Y, Baba H. Hepatobiliary and Pancreatic: Portal vein stent for local recurrence of bile duct cancer. J Gastroenterol Hepatol. 2017 Aug;32(8):1425
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	Miyata T, Okabe H, Chikamoto A, Yamao T, <u>Umezaki N.</u> , Tsukamoto M, Kitano Y, Arima K, Nakagawa S, Imai K, Hashimoto D, Yamashita YI, Baba H. A long-term survivor of hilar cholangiocarcinoma with resection of recurrent peritoneal dissemination after R0 surgery: a case report. Surg Case Rep. 2017 Oct 16;3(1):110.
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	Arima K, Yamashita YI, Hashimoto D, Nakagawa S, <u>Umezaki N.</u> , Yamao T, Tsukamoto M, Kitano Y, Yamamura K, Miyata T, Okabe H, Ishimoto T, Imai K, Chikamoto A, Baba H. A long-term survivor of hilar cholangiocarcinoma with resection of recurrent peritoneal dissemination after R0 surgery: a case report. Am J Surg. 2017 Aug 26. pii: S0002-9610(17)31158-3

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Okadome K.</u> Comparative study of emergent abdominal surgery cases in then 80s and 90s, 47th World Congress of Surgery 2017 (Switzerland) 2017.8.13-17
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Tsukamoto M.</u> Longterm vorable outeomes of radio frequency abtation for hepatocellular carcinoma asiainitial treatment: a single-center experience over a 10-year period, 47th World Congress of Surgery 2017 (Switzerland) 2017.8.13-17

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>梅崎直紀</u> , 腓体尾部切除術における自動縫合器による腓断端処理の治療成績, 第72回日本消化器外科学会総会(金沢), 2017年7月21日
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>塚本雅代</u> , 多発肝細胞癌に対する肝切除+ラジオ波凝固療法: 肝切除単独との比較, 第72回日本消化器外科学会総会(金沢), 2017年7月22日
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>山尾宣暢</u> , 大腸癌肝転移におけるラジオ波凝固療法を併用した肝切除術の有効性, 第72回日本消化器外科学会総会(金沢), 2017年7月22日
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>梅崎直紀</u> , 膵癌術後の単発肺転移再発4症例における切除の有用性の検討, 第26回日本がん転移学会(大阪), 2017年7月28日
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>大徳暢哉</u> , 潰瘍性大腸炎に対する外科的治療, 第42回日本大腸肛門病学会九州地方会(熊本)2017年9月16日
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>梅崎直紀</u> , 肝細胞癌においてリシルオキシダーゼ発現は早期再発に関連している, 第76回日本癌学会学術総会(神奈川), 2017年9月30日
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>清住雄希</u> , 胃がん腹膜播種におけるPL0D2の関連性, 第76回日本癌学会学術総会(神奈川), 2017年9月30日
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>山尾宣暢</u> , 初回切除時の肝内胆管癌におけるサルコペニアおよびCAF内の caveolin-1発現の臨床的意義, 第76回日本癌学会学術総会(神奈川), 2017年9月30日
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>梅崎直紀</u> , 胆管空腸吻合術および膵管空腸吻合術後晩期合併症に対する治療戦略, 第25回日本消化器関連学会週間(福岡), 2017年10月12~15日
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>山尾宣暢</u> , AFP低値の肝細胞癌におけるAFP-L3分画上昇の臨床的意義, 第25回日本消化器関連学会週間(福岡), 2017年10月12日~15日
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>山尾宣暢</u> , 肝内胆管癌におけるサルコペニアと癌関連線維芽細胞における細胞老化の意義, 第28回日本消化器癌発生学会(熊本), 2017年11月17日
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>梅崎直紀</u> , Lysyl oxidaseの肝細胞癌肝内転移再発予測因子としての有用性の検討, 第28回日本消化器癌発生学会(熊本), 2017年11月18日
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>清住雄希</u> , 食道癌におけるID01発現の網羅的解析, 第28回日本消化器癌発生学会(熊本), 2017年11月18日
14	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>岡留一雄</u> , 食道癌における全身栄養状態(CONUTスコア)と腫瘍局所免疫動態の関連, 第79回日本臨床外科学会総会(東京), 2017年11月23日
15	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>坂本悠樹</u> , 十二指腸潰瘍穿孔に対して術中内視鏡併用腹腔鏡下十二指腸大網充填を行った例, 第79回日本臨床外科学会総会(東京), 2017年11月23~25日
16	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>大徳暢哉</u> , 腹腔鏡下大腸全摘術の手術手技と治療成績, 第30回日本内視鏡外科学会(京都), 2017年12月9日
17	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース (H30新コース移行予定)	<u>大徳暢哉</u> , Salvage line 治療前の治療期間と骨髄抑制の関連性, 第88回大腸癌研究会(東京), 2018年1月26日



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	大分大学
コーディネーター	白尾國昭
事務担当者	園田英人

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

②がん医療で協働する多職種についての理解を深め、個々のがん患者のがん治療において多職種と協働して活動する力を高めることも目的とした教育セミナーなどを開催した。

③小児がん・希少がんに関しては腫瘍血液内科、整形外科、小児科を中心に診療体制を作り、臨床研究の開始にむけて動き出した段階であり、これらをもとに専門医療人の育成をはかる予定である。ゲノム医療に向けては遺伝外来をはじめ当院の体制を検討中である。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

のべ83人（大学院20人、社会人63人）が各種学会（38人）、及びセミナー（45人）、に参加し、それぞれの領域において成果を上げることができた。

## 2. 各事業の取り組み状況

<b>①教育コース（大学院コース、インテシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>	
ゲノム医療研究者養成コース	: 新規受講生 2 人（医師 2 人）
多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース	: 新規受講生 2 人（修士 2 人 看護師 2 人）
ライフステージに応じた医療人養成コース	: 新規受講生 5 5 人（医師 7 人看護師 3 8 人薬剤師 1 0 人）
<b>②シンポジウム、セミナー、講習会等</b>	
<b>※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。</b>	
インテシブ教育セミナー	: 4 回 （2 0 0 人）
セミナー・講演	: 4 回 （1 2 0 人）
大分大学合同カンファレンス	: 1 回 （4 0 人予定）
<b>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>	
市民公開講座（2 / 2 5 予定）約 5 0 人参加予定	
<b>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</b>	
(1) がんに関する集会・研修会・セミナー : 1 回	
(2) がん研修会 : 1 4 回実施済み・3 回実施予定。	
(3) がん化学療法チーム医療～グループ研修会～ : 1 回	
(4) インテシブ教育セミナー : 5 回	
<b>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</b>	
ライフステージにおける取り組み（上記①②③④より抜粋）	
インテシブ教育セミナー : 4 回	
インテシブ看護教育セミナー 1 回	

## 3. 自己評価

<b>【選択肢】 a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</b>
c
<b>理由・分析等</b>
新規受講生もがんプロに登録された。 研修会・シンポジウム・セミナーなどが開催できた。
<b>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</b>
今後は各領域において専門家として活動できる人材を育成していく予定である。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	大分大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じた医療人養成コース	Sagami R, Nishikiori H, Ikuyama S, <u>Murakami K</u> Rupture of small cystic pancreatic neuroendocrine tumor with many microtumors, World J Gastroenterol, 23(37), 6911-6919, 2017
2	ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Nomura T</u> , <u>Yamasaki M</u> , Takei K, <u>Sato F</u> , Terachi T, <u>Mimata H</u> . Pfannenstiel laparoendoscopic reduced-port bilateral radical nephrectomy for a patient with renal cell carcinoma undergoing hemodialysis. Asian J Endosc Surg. 2017 Aug 30.
3	ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Shin T</u> , Smyth TB, Ukimura O, Ahmadi N, de Castro Abreu AL, Ohe C, Oishi M, <u>Mimata H</u> , Gill IS. Diagnostic accuracy of a five-point Likert scoring system for magnetic resonance imaging (MRI) evaluated according to results of MRI/ultrasonography image-fusion targeted biopsy of the prostate. BJU Int. 2018 Jan;121(1):77-83.
4	ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Yamasaki M</u> , Sato Y, <u>Nomura T</u> , <u>Sato F</u> , Uchino S, <u>Mimata H</u> . Composite paraganglioma-ganglioneuroma concomitant with adrenal metastasis of medullary thyroid carcinoma in a patient with multiple endocrine neoplasia type 2B: A case report. Asian J Endosc Surg 10: 66-69, 2017
5	ゲノム医療研究者養成コース・ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Tada K</u> , Ohta M, <u>Saga K</u> , <u>Takayama H</u> , Hirashita T, Endo Y, Uchida H, Iwashita Y, Inomata M Long-term outcomes of laparoscopic versus open splenectomy for immune thrombocytopenia, Surg Today, 48(2), 180-185, 2017
6	ゲノム医療研究者養成コース	Fujishima H, Ueda Y, Shiraishi N, <u>Hara T</u> , <u>Ichimanda M</u> , Shitomi Y, Shiroshita H, Etoh T, Inomata M Characteristics of Advanced Gastric Cancer With Negative or Only Perigastric Lymph Node Metastasis in Elderly Patients, Aging Clin Exp Res, in press, 2017
7	ゲノム医療研究者養成コース	<u>Ichimanda M</u> , Hijiya N, Tsukamoto Y, Uchida T, Nakada C, Akagi T, Etoh T, Iha H, Inomata M, <u>Takekawa M</u> , <u>Moriyama M</u> Downregulation of dual-specificity phosphatase 4 enhances cell proliferation and invasiveness in colorectal carcinomas, Cancer Sci, 109(1), 250-258, 2017
8	ゲノム医療研究者養成コース	Jianwei Ma, T Hiratsuka T, Etoh T, Akada J, <u>Fujishima H</u> , Shiraishi N, Yamaoka Y, Inomata M Anti-proliferation effect of blue light-emitting diodes against antibiotic-resistant Helicobacter pylori, J Gastroenterol Hepatol, in press, 2017
9	ゲノム医療研究者養成コース	Iwashita Y, Uchida H, Takayama H, <u>Ichimanda M</u> , Taniguchi K, Kiguchi H, Sakaguchi T, <u>Fujishima H</u> , <u>Saga K</u> , <u>Tada K</u> , <u>Hara T</u> , Watanabe K, Hirashita T, Endo Y, Ohta M, Inomata M Control of inferior vena cava injury during laparoscopic surgery using a double balloon-equipped central venous catheter: proof of concept in a live porcine model, Surg Endosc, n press, 2017
10	ゲノム医療研究者養成コース	Watanabe K, Ohta M, Takayama H, <u>Tada K</u> , Shitomi Y, Kawasaki T, Kawano Y, Endo Y, Iwashita Y, Inomata M Effects of sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease in an obese rat model, Obes Surg, in press, 2017
11	ライフステージに応じた医療人養成コース	Sonoda A, Wada K, Mizukami K, <u>Fukuda K</u> , Shuto M, Okamoto K, <u>Ogawa R</u> , Okimoto T, <u>Murakami K</u> Deep Ulcers in the Ileum Associated with Mycophenolate Mofetil, Intern Med, 56(21), 2883-2886, 2017
12	ライフステージに応じた医療人養成コース	Sonoda A, <u>Ogawa R</u> , Mizukami K, <u>Fukuda K</u> , Shuto M, Okamoto K, Matsunari O, Okimoto T, <u>Murakami K</u> Marked improvement in gastric involvement in Behçet's disease with adalimumab treatment, Turk J Gastroenterol, 28(5), 405-407, 2017
13	ライフステージに応じた医療人養成コース	Sagami R, Tsuji H, Nishikiori H, <u>Murakami K</u> Endoscopic ultrasound-guided transduodenal drainage of idiopathic retroperitoneal abscess in an immunocompromised patient: A case report, Medicine (Baltimore), 96(50), 2017
14	ライフステージに応じた医療人養成コース	Sagami R, Nishikiori H, Anami K, Fujiwara S, Honda K, Ikuyama S, Kitano M, <u>Murakami K</u> Utility of Endoscopic Ultrasonography Screening for Small Pancreatic Cancer and Proposal for a New Scoring System for Screening, 47(2), 257-264, 2018

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 和文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>秦 聡孝</u> , <u>三股浩光</u> , 【新腎・泌尿器癌(下)-基礎・臨床研究の進歩-】 陰茎癌 陰茎癌の検査・診断 陰茎癌の病期分類. 日本臨床 (0047-1852)75巻増刊7 新腎・泌尿器癌(下) Page501-504(2017.10)
2 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>佐藤文憲</u> , <u>秦 聡孝</u> , <u>三股浩光</u> , 【泌尿器科処置とトラブル対処法-日常臨床に潜むピットフォール】<その他> 回腸導管の管理(ストーマ管理). 臨床泌尿器科 (0385-2393)71巻12号 Page1002-1006(2017.11)
3 ゲノム医療研究者養成コース	<u>岩下幸雄</u> , <u>高山洋臣</u> , <u>遠藤裕一</u> , <u>内田博喜</u> , <u>平下禎二郎</u> , <u>部由貴</u> , <u>駄阿勉</u> , <u>嵯峨邦裕</u> , <u>多田和裕</u> , <u>太田正之</u> , <u>猪股雅史</u> 腹腔鏡下Narrow Band Imagingによる胆嚢漿膜面の観察—preliminary study, 胆道, 31 (5) , 802-808, 2017
4 ゲノム医療研究者養成コース	<u>一万田充洋</u> , <u>衛藤剛</u> , <u>中嶋健太郎</u> , <u>平塚孝宏</u> , <u>赤木智徳</u> , <u>柴田智隆</u> , <u>上田貴威</u> , <u>白下英史</u> , <u>猪股雅史</u> 大腸癌手術の化学的腸管処理におけるカナマイシンおよびメトロニダゾール併用投与の有用性, 日本大腸肛門病学会雑誌, 70 (4) , 214-221, 2017
5 ゲノム医療研究者養成コース	<u>太田正之</u> , <u>遠藤裕一</u> , <u>高山洋臣</u> , <u>嵯峨邦裕</u> , <u>多田和裕</u> , <u>猪股雅史</u> 肥満の外科療法, 成人病と生活習慣病, 47 (11) , 1448-1452, 2017
6 ゲノム医療研究者養成コース	<u>嵯峨邦裕</u> , <u>有永信哉</u> , <u>中島公洋</u> , <u>酒井昌博</u> , <u>酒井巖海</u> 十二指腸瘻を伴うS状結腸癌の1例, 消化器外科, 40 (11) , 1601-1605, 2017
7 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>岡本和久</u> , <u>兒玉雅明</u> , <u>福田健介</u> , <u>首藤充孝</u> , <u>橋永正彦</u> , <u>小川竜</u> , <u>松成修</u> , <u>水上一弘</u> , <u>沖本忠義</u> , <u>村上和成</u> , Helicobacter pylori感染胃粘膜の特徴と除菌による変化, 消化器内視鏡, 29(7), 1204-1215, 2017. 7月
8 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>兒玉雅明</u> , <u>沖本忠義</u> , <u>小川竜</u> , <u>岡本和久</u> , <u>水上一弘</u> , <u>村上和成</u> , ピロリ除菌後に発見された早期胃癌の特徴, 消化器・肝臓内科, 2(1), 19-27, 2017. 7月
9 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>兒玉雅明</u> , <u>村上和成</u> , 除菌後胃癌早期発見のための注意点とフォローアップの方法, 週刊日本医事新報, 4881, 37-44, 2017. 11月
10 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>兒玉雅明</u> , <u>沖本忠義</u> , <u>小川竜</u> , <u>岡本和久</u> , <u>首藤充孝</u> , <u>松成修</u> , <u>水上一弘</u> , <u>村上和成</u> , 欧州におけるHelicobacter pylori除菌による胃がん予防, Helicobacter Research, 21(4), 347-355, 2017. 8月
11 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>沖本忠義</u> , <u>村上和成</u> , Helicobacter pylori除菌治療の新展開, Helicobacter Research, 21(5), 491-497, 2017. 10月

○ 国際学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Toshitaka Shin</u> , Current Diagnostic Accuracy of Conventional Computed Tomography Scan in Surgically Removed Benign Renal Tumors, SIU2017(LISBON)2017. 10
2 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Kazunori Iwasaki</u> , EphrinB1 Up-Regulated by Slug Promotes Migratory and Invasive Behavior in Chronic Hypoxia Lncap Human Prostate Cancer Cells, SIU2017(LISBON)2017. 10
3 ゲノム医療研究者養成コース ・ ライフステージ	<u>Mutsushi Yamasaki</u> , <u>Kohei Takei</u> , <u>Kazunori Iwasaki</u> , <u>Mari Hanada</u> , <u>Yasuyuki Akita</u> , <u>Kenichi Hirai</u> , <u>Tadasuke Ando</u> , <u>Toshitaka Shin</u> , <u>Takeo Nomura</u> , <u>Fuminori Sato</u> , <u>Toshiro Terachi</u> , and <u>Hiromitsu Mimata</u> , Laparoendoscopic Single-Site Nephrectomy for Hemodialysis Patients with Dialysis-Related Renal Tumors, SIU2017(LISBON)2017. 10
4 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Takeo Nomura</u> , <u>Yuko Fukuda</u> , <u>Sadaaki Sakamoto</u> , <u>Nobuyoshi Nasu</u> , <u>Yoshihisa Tasaki</u> , <u>Tadamasa Shibuya</u> , <u>Fuminori Sato</u> , <u>Hiromitsu Mimata</u> , Comprehensive evaluation of the health-related quality of life after ultrasound-guided prostate needle biopsy: A prospective study. SIU2017(LISBON)2017. 10
5 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Michihiro Ichimanda</u> , <u>Takahiro Hiratsuka</u> , <u>Kentaro Nakajima</u> , <u>Tomonori Akagi</u> , <u>Hidefumi Shiroshita</u> , <u>Tsuyoshi Etoh</u> , <u>Norio Shiraishi</u> , <u>Masafumi Inomata</u> Long-term outcomes of preoperative RT+S-1 for locally advanced rectal cancer: a multi-institutional, prospective, phase II trial (UMIN000003396) 47th World Congress of Surgery 2017 2017. 8. 13-17 Basel, Switzerland
6 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Kodama M</u> , <u>Okimoto T</u> , <u>Abe H</u> , <u>Mizukami K</u> , <u>Ogawa R</u> , <u>Okamoto K</u> , <u>Murakami K</u> , Clinicopathological Features of Gastric Mucosa Prior to Helicobacter pylori eradication May Predict Gastric Cancer, WCOG世界消化器病学会 & ACG米国消化器病学会 (United States)2017年10月13日-10月18日
7 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Ogawa R</u> , <u>Murakami K</u> , Changes of the gastric mucosal glycosylation in H.pylori infection and before/after H.pylori eradication using lectin microarray analysis, WCOG世界消化器病学会 & ACG米国消化器病学会 (United States)2017年10月13日-10月18日
8 ライフステージに応じた医療人養成コース	<u>Toshitaka Shin</u> , EAU(33rd EAU Annual Congress), Panel discussion on bladder cancer: What is your choice of treatment? (発表ではありませんがパネルディスカッションだそうです)
9 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Takao Hara</u> , ASCO-GI (San Francisco), Laparoscopic versus open surgery for locally advanced rectal cancer following neoadjuvant chemoradiotherapy with S-1: Short- and long-term outcomes of multicenter prospective phase II trials

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じた医療人養成コース	佐藤文憲, 秦 聡孝, 山崎六志, 秋田泰之, 花田麻里, 平井健一, 安藤忠助, 野村威雄, 寺地敏郎, 三股浩光, LPNよりRAPNへの移行：我々の取り組み, 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会（徳島）2017年11月18日
2	ライフステージに応じた医療人養成コース	山崎六志, 武井航平, 安藤忠助, 秦 聡孝, 野村威雄, 佐藤文憲, 寺地敏郎, 三股浩光, 経腔的臓器摘出を行ったReduced Port腎摘除術の経験, 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会（徳島）2017年11月18日
3	ライフステージに応じた医療人養成コース	秦聡孝, Index lesionを加味した前立腺3Dプリントモデルの開発, 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会（徳島）2017年11月16日
4	ライフステージに応じた医療人養成コース	野村威雄, 腹腔鏡下膀胱全摘術における体外外尿路変向のTIPS, 第30回日本内視鏡外科学会総会（京都）2017年12月7日
5	ライフステージに応じた医療人養成コース	野村威雄, 武井航平, 岩崎和範, 花田麻里, 秋田泰之, 山崎六志, 平井健一, 秦聡孝, 安藤忠助, 佐藤文憲, 寺地敏郎, 三股浩光, 超高齢時代の腹腔鏡下膀胱全摘除術, 第69回西日本泌尿器科学会総会（大分）2017年11月9-12日
6	ライフステージに応じた医療人養成コース	野村威雄, 武井航平, 花田麻里, 秋田泰之, 山崎六志, 平井健一, 秦聡孝, 安藤忠助, 佐藤文憲, 寺地敏郎, 三股浩光, Pfannenstiel Reduce Port腹腔鏡下腎摘除の検討, 6th Reduced Port Surgery Forum 2017 in Oita（大分）2017年8月4-5日
7	ゲノム医療研究者養成コース	板井勇介, 正中弓状靱帯圧迫症候群による下腭十二指腸動脈瘤の1例 石川（第72回日本消化器外科学会総会 2017.7.20）
8	ゲノム医療研究者養成コース	一万田充洋, 腹腔鏡下幽門側胃切除後再建における小開腹下Roux-en-Y法の短期成績－小開腹下B-I再建との比較検討－ 石川（第72回日本消化器外科学会総会 2017.7.20）
9	ゲノム医療研究者養成コース	野田美和, 末梢血中PD-1, PDL1発現の乳癌予後予測因子としての有用性 第76回日本癌学会学術総会（2017.9.28）横浜
10	ゲノム医療研究者養成コース	一万田充洋, 大腸癌におけるDUSP4発現低下は増殖能・浸潤能に関与する 第76回日本癌学会学術総会 2017.9.28-30 横浜
11	ライフステージに応じた医療人養成コース	兒玉雅明, 沖本忠義, 小川童, 岡本和久, 水上一弘, 首藤充孝, 阿部寿徳, 安部高志, 永井敬之, 有田毅, 村上和成, H.pylori除菌後発見胃癌における胃粘膜萎縮、腸上皮化生の除菌後経時変化の検討, 第14回日本消化管学会総会学術集会（東京都）, 2018年2月9日10日
12	ライフステージに応じた医療人養成コース	小川童, 首藤充孝, 福田健介, 岡本和久, 水上一弘, 沖本忠義, 兒玉雅明, 村上和成, 当院での食道アカラシア診断とPOEM治療成績, 第14回日本消化管学会総会学術集会（東京都）, 2018年2月9日10日
13	ライフステージに応じた医療人養成コース	福田健介, 首藤充孝, 岡本和久, 小川童, 松成修, 水上一弘, 沖本忠義, 村上和成, 当院における高齢者（75歳以上）に対する大腸ESDの安全性・有用性の検討, 第14回日本消化管学会総会学術集会（東京都）, 2018年2月9日10日
14	ゲノム医療研究者養成コース	EGFR遺伝子変異陽性肺癌の癌性髄膜炎でAfinitinib耐性後、Erlotinib + Bevacizumab併用療法が奏効した1例 安部美幸, 小副川敦, 内匠陽平, 小林良司, 宮脇美千代, 武内秀也, 岡本龍郎, 杉尾賢治 第58回 肺癌学会九州支部学術集会 2018年2月24日



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	宮崎大学
コーディネーター	細川 歩
事務担当者	串間 宏美

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度の宮崎大学がんセミナーでは、総論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など）、各論（胃癌、大腸癌、乳癌などの代表的な腫瘍）について13回（25コマ）開催。多様な新ニーズに対応する専門医療人の養成やライフステージに応じたがん対策を推進する多職種の人材育成を目的とし、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、事務など延べ491名の多職種の医療人が参加した。また、講演会を開催。「高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア」のテーマのもと、看護職、医療・福祉関連職種の方が参加した。また、遺伝がん医療に関連し、遺伝がん看護に関する学会、セミナー等への参加を通し、最新の知見を得るよう努めた。なお、今年度教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入れはない。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度の宮崎大学がんセミナーでは、延べ491名の多職種の医療人が参加したが、セミナー全体を通しての参加人数は少なかった。また、少数ではあるが、医学生も参加していた。ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コースとしては、2名がセミナー全体の3分の2以上を受講し修了条件を満たしている。がん看護は、医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みやがん患者の仕事と治療の両立への支援方法を学ぶために、多職種連携教育の導入やがん診療に関する地域データを利用した教育を実践することを教育内容の特色に掲げている。今年度開催した講演会では、多職種の参加を得ることができ、教育実施にあたっての人脈作りも含めた基盤を作ることができた。遺伝がん看護に関する学会やセミナーへの参加は、最新知見を基にした学生への教授が可能となった。また、遺伝がん看護の国内の先駆者との繋がりをもつことができ、授業や講演に来ていただくなど教育資源の開発に繋がった。

## 2. 各事業の取り組み状況

## ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

大学院コースの受入れはなく、第2期がんプロの学生の第3期への移行もない。インテンシブコースのライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コースは、2名がセミナー全体の3分の2以上を受講し修了条件を満たした。がん看護に関し、次年度以降に向け、教育環境の整備を行い、教員のファカルティディベロップメントも継続して行っている。

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

宮崎大学がんセミナー：総論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など）、各論（胃癌、大腸癌、乳癌などの代表的な腫瘍）について13回（25コマ）開催。延べ491名の多職種の医療人が参加（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、事務）。

講演会「高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア」：31施設から113名が参加（看護師、介護士、医師、歯科医師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、学生）。

**③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述**

がん看護専門看護師養成を機に設立した「がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内を掲載。

**④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）**

附属病院で開催される緩和ケア症例検討会に参加し、多職種連携のもと展開される、緩和ケアが必要な患者、家族への支援方法を学んでいる。

附属病院遺伝カウンセリング部主催の症例検討会に参加し、遺伝性腫瘍に係るケースの検討を通して遺伝性腫瘍の家系員、あるいはがんの遺伝を心配する人々に必要な看護援助について考察し、遺伝がん看護の理解を深められるようにしている。

**⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。**

今年度開催した講演会は、高齢者のエンドオブライフ・ケアをテーマに開催した。講演内容は、認知症をもつ高齢者の、死を見据えた生を支えるケアについてであり、多職種連携、施設間連携を踏まえたものであった。参加者について、看護師のみならず介護士、医師、歯科医師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、学生と多様な医療・福祉関連職種の方の参加を得ることができ、多職種人材養成に繋がることが期待される

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

C

**理由・分析等**

セミナーに関し、セミナー全体を通しての参加人数が少なかった。

今年度、大学院コースの受入れは行っていないが、がん看護において、教育環境の整備については達成できた。講演会で、多職種の方に参加頂いたことは、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。

**自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等**

セミナーに関し、セミナー全体を通しての参加人数が少なかったため、継続的な参加が増えるよう開催通知など学内、学外（他施設の医療従事者等）へ周知していく。最新知識や技術を取り入れ、講義内容の充実を図る。

次年度、大学院コースの受入れは0名となる予定だが、教員のFDも継続しつつ、よりよい学習環境を整備する。3期コースの学生がいらない分、2期コースの学生が少しでも早く修了できるよう努める。

また、地域包括ケアシステムの完全実施となる年であり、がんと共に生きる高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることを支える能力の向上を目指した講演会の企画運営を行う。



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	鹿児島大学
コーディネーター	上野 真一
事務担当者	作田 憲一

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国に  
おけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がんは、平成28年の新たな罹患者数が約100万人と見込まれ、国民の約2人に1人は生涯のうちにがん罹患すると推計されている。鹿児島県には、AYA世代、壮年人口が集中する市街地域とともに高齢化が進む多数の僻地・離島を有し、がん罹患する世代も様々であり、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する責務がある。ライフステージに応じたがん治療は、価値観の多様化への個別化医療を進めることに他ならない。鹿児島県では、がん診療の均てん化、向上に資する取組として全地域拠点病院・県指定病院を集めての4部門（がん診療企画部門、がん登録部門、がん相談・連携部門、緩和ケア部門）合同研修会を平成25年度から年2回実施し、人材育成としてきた。更に平成30年度からは、地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース（包括的地域がん医療コース）を開講予定である。

がんゲノム医療は、超高齢化社会を迎える日本で極めて重要である。科学的根拠のあるがん医療は高騰する医療費の抑制の切り札である。ゲノム情報を解析し、その結果を個人のがん治療につなげられる能力、遺伝性疾患（乳がん等）に係るカウンセリングの手法を体系的に修得できる教育プログラム・コースであるがんゲノム医療コース（先端的がん医療コース）を平成30年度から開講する。前述した平成29年度の4部門合同研修会では、がんゲノム医療に関する講師（慶應義塾大学病院 腫瘍センター 西原 広史教授）を招いて実施した（図）。また当講座の教員1名と当院の薬剤師3名は平成29年度の「日本医療研究開発機構革新的がん医療実用化研究事業 がんの個別化医療の実用化に向けた解析・診断システムの構築研究」班が主催するがんゲノム医療講習会を修了した。

医師、歯科医師、薬剤師、看護師等を対象に、希少がん及び小児がんの正確な診断や集学的医療の実践を行える能力を養う体系的な教育プログラム・コース（インテンシブ）の構築を進めている。この分野においても、ゲノム情報による正確な診断と治療薬の選択は重要であり、ゲノム医療の実装は不可欠である。

本講座主催の定期的な「鹿児島希少がん・肉腫カンファレンス」（平成29年7月7日、講師：国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 米盛 勲先生）と「腫瘍免疫カンファレンス」（平成29年12月6日、講師：群馬大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 近松 一郎教授）を企画し、それぞれ約80名の参加があり、大学院生も参加した。免疫チェックポイント阻害薬は、がん患者に生存期間の延長をもたらす画期的な薬剤である。一方、長期にわたり必要となる、免疫関連副作用への対応が必須である。平成29年度から多診療科での「鹿児島大学病院免疫チェックポイント阻害剤副作用マネジメント連携マニュアル」を作成し、迅速に対応できるネットワークを組織した。腫瘍免疫カンファレンスで鹿児島大学病院の関連診療科である糖尿病内科、内分泌内科、消化器内科、神経内科の先生方から、マニュアルの運用をご説明いただいた。



図 平成29年度 第1回鹿児島県4部門合同研修会

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

平成24年度～28年度の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」期間に、博士課程「僻地・離島医療専門医療人養成コース」には11名が入学し、4名が卒業した。現在も5名が在籍中である。医師のキャリア形成は、男女問わず医師として生涯を通して努力しなくてはならない課題である。僻地・離島医療実習を組み込み医師として勤務する傍、従来の手術、放射線治療、殺細胞性抗がん薬に加えて、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬を用いた、高度な集学的がん治療を理解したことは、がん専門医療人としてのキャリア継続への強い意志を醸成し、キャリア向上を促進させるために有用であったと考えられる（図）。

- 【教育目標】  
1)がんに関する研究遂行能力と同時に、がん患者に対する高度な先端医療も理解し行いうる人材。  
2)へき地・離島医療においてもがん専門医療人として活躍する人材。

鹿児島大学病院	鹿児島県	僻地・離島
1年	2年	1年

- 【修了要件】  
①修士論文、内定書提出、専門基礎科目、専門科目の中から、必要230単位の修得。  
②臨床研修は、自費で下部研修地において、腫瘍内科・内科、乳腺内科、呼吸器内科・外科、乳癌科、緩和ケア、放射線科など2年以上研修の上、実施する。  
③僻地・離島の指定研修地での実習は1年以上実施を行う。  
博士課程中に以下の資格を有する臨床研修を行うが、臨床研修に際しては保証金が必要。  
日本がん治療認定医機構認定医。  
外科学療法士を中心とした、呼吸器、消化器、乳腺などのがん患者に関する研修を1年以上実施（1回/年1回）。また緩和ケアセンター4回など。  
\*日本臨床腫瘍学専門医  
各県のそれぞれで臨床研修に際しては、臨床、呼吸器、消化器、乳腺など4領域のがん治療法を専攻1ヵ月研修。また緩和ケアセンター8回など

図 博士課程「僻地・離島医療専門医療人養成コース」

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

前述の様に、大学院コースとして、平成30年度からは、「地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース（包括的地域がん医療コース）」、「がんゲノム医療コース（先端的がん医療コース）」、「放射線看護専門コース（包括的地域がん医療コース）」を開講予定である。インテンシブコースとして、「それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム」と「希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム」を医師、歯科医師、薬剤師、看護師、社会福祉士を対象に、「がん専門薬剤師養成コース」薬剤師を対象に開講する。「がん専門薬剤師養成コース」は、平成30年3月13日、奄美大島で開催される。「それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム」では、ライフステージによって異なる全人的苦痛への対応と社会復帰支援について、また「希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム」では、肉腫の集学的治療を中心に、薬物療法の総論から本学で行われている最新遺伝子治療までの教育を行う。また必要な緩和ケアに関しても学習する。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

#### ※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

鹿児島県がん診療連携協議会 4部門合同研修会を年2回開催し、地域がん医療に従事する多職種の人材育成を目指す。毎回120-160人の参加がある。H29年度は、第1回を平成29年8月26日に、第2回を平成30年2月24日開催予定である。第1回はがんゲノム医療に関する講師（慶應義塾大学病院 腫瘍センター 西原 広史教授）を招いて実施した。147人参加があった。現在のがん薬物療法は、分子標的療法薬や免疫チェックポイント阻害薬などの登場により、適用や使用法、副作用対策など各科横断的に情報共有を図り、また多職種連携による対策が重要である。また、「がんプロ養成プラン」の一環として若手医師や大学院生等に対する教育の機会も増やさねばならない。本講座を中心に、各専門家をお呼びし、「鹿児島希少がん・肉腫カンファレンス」（平成29年7月7日、講師：国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 米盛 勸先生）と「腫瘍免疫カンファレンス」（平成29年12月6日、講師：群馬大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 近松 一朗教授）を実施した。H29年度は、2回開催し毎回80人程度の参加者があった。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

がん疾患・医療に対する市民の関心の高さから、毎年、本講座と病院腫瘍センターとの共催で市民公開講座を企画実施してきた。この中では、緩和医療やがん相談などの観点からもテーマを決定し、市民への理解に努めた。さらに、「がんプロ」の意義やその教育内容についても紹介した。H29年度は、膵臓がんの診断、治療、緩和ケア に関する講師（佐世保市総合医療センター緩和ケア科 富安志郎 診療科長）を招いて実施し、254人が参加した。

### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

鹿児島県では、がん診療の均てん化、向上に資する取組として全地域拠点病院・県指定病院、合計23病院を集めての4部門（がん診療企画部門、がん登録部門、がん相談・連携部門、がん緩和部門）合同研修会を平成25年度から年2回実施してきた。がん医療における病診連携や地域連携を目的に、臨床腫瘍学講座主導により、「がん診療連携クリティカルパス」を刷新し、県下約900診療所・クリニックに対して、2回のアンケート調査を行い、離島を含む約220診療所がすでに九州厚生局への届け出を終え連携可能となった。今後も継続する方針である。

### ⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

ライフステージに応じたがん治療は、価値観の多様化への個別化医療を進めることであり、ゲノム解析の実装は必要条件となる。以前からAYA世代の多い造血器腫瘍治療を中心とした、妊孕性維持、卵子・精子保存、リキッドバイオプシー、染色体解析、遺伝子変異解析、解析に対応した分子標的治療薬の決定に取り組んでいる。サバイバーシップへの取り組みとして、前述に就労支援を加えて、がん治療医、泌尿器科、産婦人科、がん相談支援部門による連携チーム作りを進めている。

がん治療年齢日本人の4人に1人はB型肝炎ウイルス（HBV）既往感染者であり、がんサバイバーへのHBV再活性化対策は極めて重要である。平成28年度から当院では、消化器内科の協力も得て、「鹿児島大学病院HBV再活性化対策」を組織した。新たに検査項目に「HBV再活性化-DNA定量（Taq Man PCR）」を設けて、再活性化時に検査室から腫瘍センターへの連絡があり、腫瘍センターから主治医へ連絡するシステムで対応している。

新規分子標的治療薬は、年単位の長期服用を必要とするがんサバイバーを創出した。分子標的治療薬の副作用対策（血管閉塞性事象の増加など）は、通常がん診療との関連が希薄である循環器内科などの協力が必要となる。当講座主催で定期開催される病院規模での腫瘍カンファレンスである院内がんセンターボードは、循環器内科も含めた26診療科、緩和ケアセンター、薬剤部、看護部、理学療法部、NSTなどから、39名の医師、2名の薬剤師、16名の看護師、1名の理学療法師を運営委員として選出しており、サバイバーシップへの取り組みの基点として機能し得る。平成24年度から平成30年1月現在、60回のがんセンターボードを開催し、のべ1,600名余の参加者があり、計70例のがん患者の治療方針が討論された。今後も毎月開催を続ける。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」からの成果を継続・発展させると同時に、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」に対応してきた。アカデミアや企業と協力の下、ゲノム医療の拠点・連携形成、人材育成にいち早く着手した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

がんゲノム医療の実装への取り組みをますます加速させる。

がん薬物療法の副作用対策・多診療科連携への取り組みを継続する。

琉球・宮崎大学との南九州を中心にした新たな連携形成の主幹大学としての機能充実を一層進めていく。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	鹿児島大学
-----	-------

## ○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	Noda M, Okumura H, Uchikado Y, Omoto I, Sasaki K, Kita Y, Mori S, Owaki T, Arigami T, Uenosono Y, Nakajo A, Kijima Y, Ishigami S, Maemura K, Natsugoe S. Correlation Between Biomarker Candidate Proteins with the Effect of Neoadjuvant Chemoradiation Therapy on Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Ann Surg Oncol. 2018 Feb;25(2):449-455.
2	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	Yonemori K, Seki N, <u>Idichi T</u> , Kurahara H, Osako Y, Koshizuka K, Arai T, Okato A, Kita Y, Arigami T, Mataka Y, Kijima Y, Maemura K, Natsugoe S. The microRNA expression signature of pancreatic ductal adenocarcinoma by RNA sequencing: anti-tumour functions of the microRNA-216 cluster. Oncotarget. 2017 Jul 26;8(41):70097-70115.
3	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Idichi T</u> , Seki N, Kurahara H, <u>Yonemori K</u> , <u>Osako Y</u> , Arai T, Okato A, Kita Y, Arigami T, Mataka Y, Kijima Y, Maemura K, Natsugoe S. Regulation of actin-binding protein ANLN by antitumor miR-217 inhibits cancer cell aggressiveness in pancreatic ductal adenocarcinoma. Oncotarget. 2017 May 29;8(32):53180-53193.
4	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	Yonemori K, Kurahara H, Maemura K, Mataka Y, Sakoda M, Iino S, Ueno S, Shinchi H, Natsugoe S. Impact of Snail and E-cadherin expression in pancreatic neuroendocrine tumors. Oncol Lett. 2017 Aug;14(2):1697-1702
5	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	Okubo K, Uenosono Y, Arigami T, Yanagita S, Matsushita D, Kijima T, <u>Amatatsu M</u> , Uchikado Y, Kijima Y, Maemura K, Natsugoe S. Clinical significance of altering epithelial-mesenchymal transition in metastatic lymph nodes of gastric cancer. Gastric Cancer. 2017 Sep;20(5):802-810.
6	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Amatatsu M</u> , Arigami T, Uenosono Y, Yanagita S, Uchikado Y, Kijima Y, Kurahara H, Kita Y, Mori S, Sasaki K, Omoto I, Maemura K, Ishigami S, Natsugoe S. PD-L1 is a promising blood marker for predicting tumor progression and prognosis in patients with gastric cancer. Cancer Sci. 2018 Jan 18. [Epub ahead of print]
7	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	Osako Y, Seki N, Koshizuka K, Okato A, <u>Idichi T</u> , Arai T, Omoto I, Sasaki K, Uchikado Y, Kita Y, Kurahara H, Maemura K, Natsugoe S. Regulation of SPOCK1 by dual strands of pre-miR-150 inhibit cancer cell migration and invasion in esophageal squamous cell carcinoma. J Hum Genet. 2017 Nov;62(11):935-944.
8	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	<u>Yamasaki Y</u> , Ishigami S, Arigami T, Kita Y, Uchikado Y, Kurahara H, Kijima Y, Maemura K, Natsugoe S. Expression of gremlin1 in gastric cancer and its clinical significance. Med Oncol. 2018 Feb 2;35(3):30. [Epub ahead of print]

## ○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	福久はるひ, 馬場 研二, 喜多 芳昭, 田 辺 寛, <u>伊地知徹也</u> , 盛 真一郎, 夏越 祥次, 下部直腸癌の化学療法中に直腸穿孔で発症したフルニエ症候群の1例 癌と化学療法 Volume 44, Issue 10, 935 - 937 (2017)
2	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	石神純也, 柳田茂寛, 恵浩一, 橋口真征, <u>平野拓郎</u> , 上之園芳一, 有上貴明, 東美智代, 夏越祥次 難治性腹水を伴った巨大胃GIST 日本外科系連合学会誌 (0385-7883) 42巻4号 (2017.8)
3	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	<u>伊地知徹也</u> , 蔵原弘, 前村公成, 又木雄弘, 川崎洋太, 迫田雅彦, 飯野聡, 上野真一, 新地洋之, 東美智代, 夏越祥次 集学的治療で完全奏効が得られた肝転移を伴うcStageIV膵体部癌1例 日本消化器外科学会雑誌 50巻11号 (2017.11)

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	有上貴明, 上之園芳一, 大久保啓史, 貴島孝, <u>天辰仁彦</u> , <u>川越浩輔</u> , 石神純也, 柳田茂寛, 内門泰斗, 盛真一郎, 喜多芳昭, 尾本至, 佐々木健, 馬場研二, 夏越祥次 切除胃癌に対する深達度と腫瘍径から測定されるPrimary Tumor Scoreの臨床的意義, 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017年10月20日
2	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	田中貴子, 上之園芳一, 有上貴明, 貴島孝, 大久保啓史, <u>天辰仁彦</u> , <u>川越浩輔</u> , 柳田茂寛, 石神純也, 夏越祥次 集学的加療により長期生存を得られている食道胃接合部癌術後再発の1例, 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017年10月20日
3	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	<u>天辰仁彦</u> , 有上貴明, 上之園芳一, 大久保啓史, 貴島孝, <u>川越浩輔</u> , 内門泰斗, 柳田茂寛, 石神純也, 夏越祥次 胃癌における末梢血液中のPD-L1RNA発現の臨床的意義, 第38回癌免疫外科研究会, 2017年5月25日
4	地域医療における臨床腫瘍専門医養成コース (H30新コース移行予定)	有上貴明, 上之園芳一, 大久保啓史, 貴島孝, <u>天辰仁彦</u> , <u>川越浩輔</u> , 石神純也, 柳田茂寛, 夏越祥次 胃癌における血小板数と血清Fibrinogenの臨床的意義 腫瘍進行度や予後の予測に有用な凝固系スコアの検討, 第72回日本消化器外科学会総会, 2017年7月20日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	琉球大学
コーディネーター	福島 卓也
事務担当者	源河 崇 ・ 加藤 愛美

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度は、専門医、専門看護師の養成のため体制整備及び養成対象者のリクルートを行い、看護師養成コースは次年度1名の受入を予定している。

学内の多職種に対し講演会を開催し、国のがん対策や今後のがん医療の在り方などについて実例に触れながら理解を深めた。学内から合計37名の参加があった。（平成29年12月26日開催）

看護職に対しては、主にAYA世代の患者に対する支援とライフステージに応じたがん体験者及び家族の相談支援をテーマに講演会を開催し、沖縄県内総合病院で勤務する看護職の52名の参加があり、有意義な情報共有の機会となった。（平成30年1月26日開催）

インテンシブコースにおいては、緩和ケアエキスパートナース養成コースとして5名の受入を予定していたが、今回は受け入れなどの準備が整わず、講演会とセミナーへの開催を組み直した。

e-learningの講師を臨床教員の中から選出したことから、今後、実医療に重きを置いた教育に寄与できると考える。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度は、実質的な養成対象者はいないため、次年度以降、成果のある教育プログラム等を展開していきたい。

## 2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- 平成29年度 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン講演会  
講演：長崎大学がんプロおよびがん診療センター10年の歩みと今後  
講師：芦澤和人先生（長崎大学大学院医歯薬総合研究科臨床腫瘍学分野教授）  
参加者：37名
- がん看護セミナー  
講演1. AYA世代の患者支援～こころとからだを支える～  
講師：濱口恵子 氏（がん研究会有明病院・副看護部長・がん看護専門看護師）  
講演2. がん体験者と共に歩む～マギーズ東京における支援の実際～  
講師：秋山正子氏（株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション代表取締役・所長、「マギーズ東京」センター長）  
参加者：52名

## ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- 琉球大学医学部のホームページに「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」ホームページのリンクを貼った。
- 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」ホームページに講演会等の周知と実施報告を行った。
- がん看護専門看護養成及び緩和ケアエキスパートナース養成のために、従来まで、大学附属病院をはじめ沖縄県内の多くの総合病院との連携協働をとってきているので、学生募集や看護セミナー実施の際には、広く案内広報を行っている。
- 研究室（琉球大学医学部成人・がん看護学）のHPにも適宜、情報を発信している。

## ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

がん看護専門看護養成及び緩和ケアエキスパートナース養成のためには、従来まで、大学附属病院をはじめ沖縄県内の多くの総合病院との連携協働をとってきているので、学生募集や看護セミナー実施の際には、広く案内広報を行っている。また、がんプロ修了生のがん看護専門看護師2名が、琉球大学医学部附属病院緩和ケアセンターに勤務しているため、連携協働しながら学生の教育研究にも貢献してもらっている。

## ⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

- がん看護セミナーでは、特にAYA世代への支援について理解を深めるために、専門家を招聘して講演をして頂き、支援のコツやポイントを共有した。
- ライフステージにおけるがんサバイバー支援の理解を深めるために、マギーズ東京における支援の実際（講師：秋山正子氏）についての講演をして頂き、多くの参加者と情報の共有を行った。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c

### 理由・分析等

3名のがん診療、がん看護のエキスパートを招聘し講演を行い、多くの聴衆が参加した。琉球大学の九州がんプロ養成プランへの取り組みを多くの関係者に周知することが出来た。本年度はプログラムの開始が年度半ばであったこともあり、当初計画していたインテンシブコース学生を募集することが出来なかったこともあり、若干目標の達成に届かなかった。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

現在大学院コース、インテンシブコースに向けてカリキュラム整備、学生募集を行っている。コースの到達目標に向けて、さらに講演の充実も図っていく。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

- ・当初「工程表」に記載していなかったセミナー・シンポジウム等を開催した場合には、適宜、行を増やして記入すること。  
・セミナー・シンポジウム等の名称が「工程表」作成時から変更になった場合は、最終的な名称に修正すること。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			H29実績		
			参加回数	参加者数	参加機関数	参加回数	参加者数	参加機関数
1	九州がんプロ	九州がんプロ全体研修会	-	-	-	1	20	4
2	九州大学	患者さんと家族のためのセミナー	-	-	-	3	6	3
3		九州大学・東北大学合同研究会 第1回腫瘍内科医交流セミナー	-	-	-	1	20	2
4		九州大学・大分大学合同カンファレンス	-	-	-	1	30	2
5		九州連携臨床腫瘍学ゲノム講習会	-	-	-	9	84	1
6		九州大学病院がんセミナー（共催）	-	-	-	5	311	不明
7		先端医用量子線技術科学コース講演会	-	-	-	1	50	不明
8	福岡大学	がんセミナー	1	30	1	0	0	0
9		がんセミナー（共催）	-	-	-	7	約600	1
10	久留米大学	家族に向けての支援教育セミナー	1	25	4	0	0	0
11		連携支援セミナー	1	25	4	0	0	0
12		希少がんに関するセミナー・シンポジウム（化学療法・緩和医療・がん関係）	1	10	1	0	0	0
13		がんプロセミナー【久留米ネットワークの会セミナー】	-	-	-	1	20	7
14		がんプロセミナー大学院特別講義	-	-	-	1	30	1
15	市民公開講座（共催）	-	-	-	1	100	2	
16	佐賀大学	がんプロセミナー	2	60	1	2	100	30

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

- ・当初「工程表」に記載していなかったセミナー・シンポジウム等を開催した場合には、適宜、行を増やして記入すること。  
・セミナー・シンポジウム等の名称が「工程表」作成時から変更になった場合は、最終的な名称に修正すること。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			H29実績		
			参加回数	参加者数	参加機関数	参加回数	参加者数	参加機関数
17	長崎大学	長崎大学がんプロ記念講演会	1	50	5	1	約70	5
18		がんゲノム講演会（共催）	2	100	5	2	約100	7
19		長崎大学がん診療連携拠点病院研修会（共催）	-	-	-	3	約300	10
20		長崎大学病院県民公開講座「がんについてよく知ろう」	-	-	-	1	約150	1
21	熊本大学	消化器がんに関するシンポジウム	2	200	1	1	68	1
22		消化器がんに関するセミナー	4	160	1	6	613	6
23		がん薬物療法に関するセミナー	2	80	1	5	90	5
24	大分大学	インテンシブ教育セミナー「がん医療のいまを知るin中津」	-	-	-	3	未定	1
25		インテンシブ教育セミナー『高齢者の意思決定能力をどのようにアセスメントするか？』	-	-	-	未定	未定	未定
26		大学院セミナー「次世代シーケンサーによる遺伝子解析－クリニカルシーケンスの実装と応用－」	-	-	-	1	47	1
27		大学院セミナー「ゲノム情報を治療・予防に」	-	-	-	未定	未定	未定
28	宮崎大学	宮崎大学がんセミナー	-	-	-	12	491	43
29		がんプロ講演会「高齢者のエンドオブライフ・ケア－最期まで人間らしく－」	-	-	-	1	113	31
30	鹿児島大学	がん薬物療法セミナー	4	400	1	0	0	0
31		4部門（がん診療企画部門、がん登録部門、がん相談・連携部門、緩和ケア部門）合同研修会	-	-	-	2	294	23
32		鹿児島希少がん・肉腫カンファレンス	-	-	-	1	30	3
33		腫瘍免疫カンファレンス	-	-	-	1	30	3
34		市民公開講座「膵臓がんはどんな病気？」「膵臓がんの診断と治療」「緩和ケアの誤解を取り上げ、がん治療の今を考える」	-	-	-	1	280	1



「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

- ・当初「工程表」に記載していなかったセミナー・シンポジウム等を開催した場合には、適宜、行を増やして記入すること。  
・セミナー・シンポジウム等の名称が「工程表」作成時から変更になった場合は、最終的な名称に修正すること。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			H29実績		
			参加回数	参加者数	参加機関数	参加回数	参加者数	参加機関数
35	琉球大学	セミナー「島嶼沖縄に求められるがん治療と看護」	3	30	1	0	0	0
36		新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン講演会	-	-	-	1	37	1
37		がん看護セミナー	-	-	-	1	52	10
合計（自動計算）			24	1,170	26	76	4,136	205

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

	大学名	コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）		指導技術向上等のためのFD		ホームページ更新／SNS投稿回数	
		実施数	実施人数	実施回数	参加人数	ホームページ更新回数	SNS投稿回数
1	九州がんプロ	0	0	1	20	30	75
2	九州大学	0	0	21	88	2	0
3	福岡大学	0	0	0	0	1	0
4	久留米大学	0	0	1	8	2	2
5	佐賀大学	0	0	0	0	0	0
6	長崎大学	0	0	0	0	8	0
7	熊本大学	1	25	0	0	0	0
8	大分大学	0	0	0	0	0	0
9	宮崎大学	0	0	0	0	1	0
10	鹿児島大学	0	0	0	0	1	0
11	琉球大学	0	0	0	0	0	0
合計（自動計算）		1	25	23	116	45	77

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

・「受入目標」欄は修正不可。  
・「養成分野」、「教育プログラム・コース名称」に修正が出る場合は、事前に九州がんプロ事務局あてご相談ください（文部科学省への手続きが必要な場合があります）。

	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	H29				
					受入目標	受入実績	修了者数		
1	九州大学	ゲノム	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	医師	0	0	0		
2		希少がん・小児がん	希少がん・放射線治療学コース	医師	0	0	0		
3		希少がん・小児がん	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	医師	0	0	0		
4		ライフステージ	先端医用量子線技術科学コース	医学物理士	0	0	0		
5		希少がん・小児がん	がん専門細胞検査士コース修士課程	その他（細胞検査士）	2	4	0		
6		希少がん・小児がん	がん研究薬剤師コース博士課程	薬剤師	2	1	0		
7	福岡大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	医師	0	0	0		
8	久留米大学	希少がん・小児がん	希少がん診療養成コース	医師	0	0	0		
9		ライフステージ	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	看護師	0	0	0		
10	佐賀大学	ライフステージ	統合的地域がん治療専門医育成コース	医師	0	0	0		
11		ライフステージ	統合的地域がん医療人育成コース	医師	0	0	0		
12	長崎大学	ゲノム	ゲノム医療人材養成コース	医師	0	0	0		
13				ライフステージ	包括的がん専門医療人養成コース	歯科医師	0	0	0
						薬剤師	0	0	0
		医師	0			0	0		
14		ライフステージ	がん看護専門看護師養成コース	歯科医師	0	0	0		
				薬剤師	0	0	0		
15	熊本大学	ゲノム	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	看護師	0	0	0		
16	大分大学	ゲノム	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	医師	3	5	0		
17		ライフステージ	多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	医師	5	2	0		
18	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース	看護師	2	2	0		
19		ライフステージ	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	医師	0	0	0		
20	鹿児島大学	ゲノム	先端的がん医療コース	看護師	0	0	0		
21		ライフステージ	包括的地域がん医療コース	医師	1	0	0		
22		ライフステージ	放射線看護専門コース	看護師	0	0	0		
23	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・がん看護専門看護師養成コース	看護師	0	0	0		
24		希少がん・小児がん	希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成・がん薬物療法専門医コース	医師	0	0	0		
				医師 小計（自動計算）	10	7	0		
				歯科医師 小計（自動計算）	0	0	0		
				薬剤師 小計（自動計算）	2	1	0		
				看護師 小計（自動計算）	2	2	0		
				その他 小計（自動計算）	2	4	0		
				合計（自動計算）	16	14	0		

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

- ・「受入目標」欄は修正不可。  
・「養成分野」、「教育プログラム・コース名称」に修正が出る場合は、事前に九州がんプロ事務局あてご相談ください（文部科学省への手続きが必要な場合があります）。

	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	H29		
					受入目標	受入実績	修了者数
1	福岡大学	ライフステージ	多職種連携がん専門医療人育成コース	医師	5	26	26
				看護師	20	21	21
				薬剤師	10	12	12
				その他（理学療法士等）	5	0	0
2	久留米大学	ライフステージ	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	その他（地域医療に携わる医療従事者全般）	0	0	0
3	熊本大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	薬剤師	0	0	0
4	大分大学	ライフステージ	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	その他（医療従事者全般）	20	52	0
5 6	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース	医師	2	6	2
		希少がん・小児がん	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	医師	2	0	0
7 8 9	鹿児島大学	ライフステージ	それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	5	0	0
		希少がん・小児がん	希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師等）	3	0	0
		その他	がん専門薬剤師養成コース	薬剤師	8	10	10
10	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・緩和ケアエキスパートナース養成コース	看護師	5	0	0
医師 小計（自動計算）					9	32	28
歯科医師 小計（自動計算）					0	0	0
薬剤師 小計（自動計算）					18	22	22
看護師 小計（自動計算）					25	21	21
その他 小計（自動計算）					33	52	0
合計（自動計算）					85	127	71

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

## ■ 受験・合格・資格取得者数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	養成する専門分 野	取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名	受験・合格・資格取得者数					
					H29					
					受験者	(内数)旧が んプロからの 移行者	合格者	(内数)旧が んプロからの 移行者	資格取得者	(内数)旧が んプロからの 移行者
	計				16	15	15	14	15	14
1	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	がん外科治療	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	4	4	3	3	1	1
2	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	がん外科治療	外科専門医（日本外科学会）	6	6	6	6	6	6
3	大分大学	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）		がん治療認定セミナー	1	0	1	0		
4	大分大学	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）		日本消化器病学会認定消化器病専門医					1	1
5	大分大学	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース （インテンシブ）		日本医療薬学会がん専門薬剤師					1	0
6	大分大学	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース （インテンシブ）		日本外科学会 外科専門医					1	1
7	大分大学	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース （インテンシブ）		日本消化器外科学会 消化器外科専門医					1	1
8	九州大学・医学系学府・医学専攻	がん専門医師養成コース	臨床腫瘍学	外科専門医	1	1	1	1	1	1
9	九州大学・医学系学府・医学専攻	がん専門医師養成コース	臨床腫瘍学	日本小児科学会専門医・指導医	1	1	1	1	1	1
10	九州大学・医学系学府・医学専攻	がん専門医師養成コース	臨床腫瘍学	日本血液学会専門医	1	1	1	1	1	1
11	九州大学・医学系学府・医学専攻	がん専門医師養成コース	臨床腫瘍学	日本がん治療認定医機構認定医	1	1	1	1	1	1
12	九州大学・医学系学府・医学専攻	がん専門医師養成コース	臨床腫瘍学	日本がん治療認定医 （筆記試験は合格、認定結果待ち）	1	1	1	1	0	0

---

---

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』

採択事業

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 平成 29 年度 内部評価報告書

編集・発行 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事業運営推進協議会

(事務局：九州大学医系学部等事務部)

ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp / <http://www.k-ganpro.com/>

---

---